

宮崎医大整形外科

# 同門会誌

第 5 号

平成5年11月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



宮崎医科大学整形外科学教室同門会総会 平成5年5月15日 於 魚よし

第2回 日本整形外科スポーツ医学国際会議  
～ ハワイ マウイ島にて開催 ～  
平成5年3月20日～25日



第19回 日本整形外科スポーツ医学会  
 ～ 平成5年7月22日～23日 ～  
 宮崎観光ホテルにて開催



～ 会長招宴を終えて ～



会長あいさつをされる田島先生



スポーツ アクティビティー





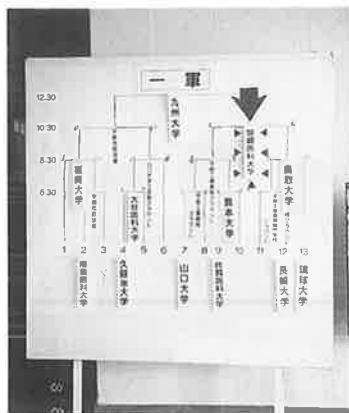
～ 第36回 西日本整形外科  
親善野球大会 ～  
平成5年8月8日 山口県にて



監督!



準優勝!!



強力打撃陣!!





見事な投手陣!!



準優勝 おめでとうございます。

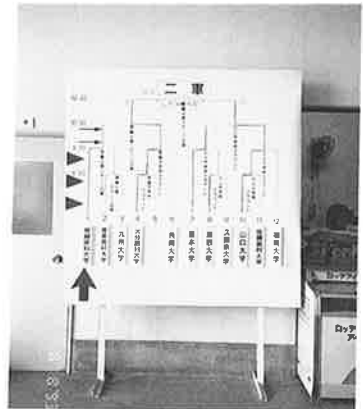


守りのDr.工藤

ベスト4!!



おつかれ様でした。



# 目 次

ご 挨拶	教授 田島 直也	1
ご 挨拶	会長 河野 雅行	3
随 想		
熊本から	木村 千仞	4
上塚先生を偲んで	山田 文夫	5
社会ルールを守ろう		
一学会を終えて想う	田島 直也	7
近況報告	弓削 達雄	8
疲れた開業医の妄想	河野 雅行	9
ゴルフ 迷える羊の記	永吉 洋次	10
医局長の独り言	福田 健二	12
新賛助会員		
私のプロフィール	尾田 博	14
お医者さまになってから	千代反田 修	15
プロフィール	獅子目 輯	19
DNAの仮の宿	山口 和正	20
プロフィール	小牧 一磨	22
新規開業		
開業にあたって	佐藤 信博	23
医院開業と今後の医療	岡本 義久	24
施設紹介		
NTT九州病院	伊勢 紘平	25
国立療養所宮崎東病院	中村 誠司	25
回 想		
第2回日米整形外科スポーツ医学国際会議	桑原 茂	26
第19回日本整形外科スポーツ医学会学術集会の御礼	平川 俊一	27



野球大会準優勝によせて	岡田 光司	28
第36回西日本整形外科親善野球大会	松元 征徳	29
スイス独り暮らし	桑原 茂	30
海外研修にて	黒木 俊政	32
医局旅行を終えて	松岡 知己	34
新入医局員紹介		36
教室同門の研究業績		39
同門会員名簿		58
賛助会員名簿		80
編集後記		

## ご 挨拶

教授 田 島 直 也



宮崎医科大学整形外科学教室も開講から19年となり、同門会誌もここに第5号の発刊の運びとなりました。

同門会員も正会員、賛助会員合わせて101名となり、年毎に増えていっているのは誠に喜ばしい事であります。ここに教室への御協力、ご支援に対し御礼申し上げます。

今年は世界的にも本格的な冷戦時代に入りアメリカではクリントン大統領、日本も細川連立政権の誕生と歴史的にみても大きな変革の年でした。

さて、教室の方は第2回日米整形外科スポーツ医学国際会議と第19回日本整形外科スポーツ医学会を担当し、またスポーツの方も西日本整形外科親善野球大会(13大学)では準優勝をするなど各方面にわたり、活気ある年ではなかったかと思えます。

ここで、今年私が感じた事を2つ述べてみたいと思います。

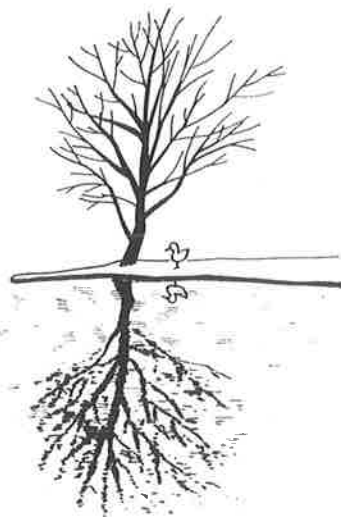
1つはアジア近隣諸国の物事に対する積極的な取り組む姿勢であります。これは5月の日台シンポジウムと8～9月の韓国でのSICOTに参加して感じたものですが、台南の國立成功大学の頼國安主任助教授や韓国の慶尚大学の主任助教授曹世鉉のように若手の教授、クラスの中には非常に優秀な人材がいて、英語をはじめ語学にも堪能で欧米との交流も盛んに行っているようで、一方日本の整形外科の実情もよく理解していて、改めて再認識した次第です。

曹世鉉助教授はSICOTの後、自分の大学にSICOT参加のDrを招いてセミナーを開くと熱っぽく話していました。又、SICOT 93 Ceremonies Committee 委員長のDr.Haは一親日家で御存知の方もいらっしゃると思いますが一毎日、日本語を勉強しているという事でした。私達も認識を新たにし初心に返り頑張っていかなければと思います。

第2に脊椎外科の事です。医学の進歩は、特に基礎医学の研究は関連各科が切磋琢磨して進歩をもたらしている事は、御存知の通りであります。しかし、最近特に脳神経外科の先生の脊椎外科への進出は目ざましく、頸椎はもとより腰椎のInstrumentationまで積極的に行うような傾向が一地方だけでなく全国

的に見られるようです。

将来、脊椎外科は整形外科と脳神経外科の両方で行なうのか、新たに“脊椎外科”としての division が外科系の中に出来るのか分かりませんが、少なくとも現時点では整形外科医は骨・軟骨を取り扱う科として脊椎外科に対し真摯に、また積極的に取り組む必要があります。さもなければ自分達で自分達の分野を狭くしていく事につながると思います。骨粗鬆症に関しても同様のことが言えますが、こういう現状を認識し、臨床、研究に取り組む必要があります。



(い)

## 挨拶

会長 河野 雅行



皆様 お元気でご活躍のことと拝察致します。

早いもので本年も同門会誌発刊の季節となりました。私のような駄文を投稿するのは気が引ける程、内容、外見ともに充実したものになって参りました。発行委員諸兄のご努力の賜物と思われます。

本年のトピックスは、何と申しましても、2つの大きな学会を宮崎医大整形外科の主管で、大成功のうちに終了致したことでありましょう。田島教授をはじめ医局の先生方の大変なご努力、並びに同門諸先生方の多大なご協力によるものです。ご苦勞さまでございました。宮崎医大整形外科の存在を全国にアピールした絶好の機会であり、充分その目的は達成できたものと言えます。地方でしかも新設医大が大きな学会を開催するというので、皆様方は大変なご苦勞をされたことと存じますが、苦勞は大きければ大きい程成果も大きなものとなりますし、この様な又と無い経験を得ることによって、自信も繁って行くものです。苦勞して得た成果と自信を基にして、皆様方が今後更なる飛躍と、ご活躍をされるものと期待しております。本年度は既に医局から数名の先生方が外国留学に行かれておりますし、様々な学会にも多数の演題を提出され、活発なご活躍をされていると伺っております。

先日宮崎で開催されました世界ベテランズ大会の際にも、医局におかれましては積極的に協力をされ、多数の貴重なデータを得られたようです。近い将来その研究結果が発表されることでしょう。

本年も多くの先生方が同門会にご入会されました。会員名簿が年々厚くなって行くのを楽しみにさせて頂いております。同門会でのご活動とご協力をお願い致します。

次第に寒くなって、忘年会等も多くなって参ります。皆様方ご健康に気を付けられてご活躍頂きますようお願い致します。



## 「熊本から」

木村千仞

19年ぶりに熊本へ舞い戻ることになり、医療福祉学院の校長さんという従前とかなり異なった役柄を引受けている。出会う人ごとに「古巣へ戻ってなつかしいでしょう。宮崎と比べてどうですか？」と云われるが、環境が変わりすぎて咄嗟の返事に戸惑っている。

第一に熊本時代の教室内・外の諸兄の頭は黒黒と艶があり、精悍な顔つきであった。今はお互い白髪頭と円福な面持ちに変わり、交わす会話・ムードもなごやかさが増し、いま浦島といった感懐にふけている。哀愁のなかの楽しい一面である。

第2に環境変化の激しさのために、昔住んでいたわが家を探すのに苦労する。あつという間に出来上ったかのように、新しい広い道路が交錯し、新しい家が建ち並び、バス路線まで変るに至っては、自家用運転が億劫になりがちで、横から女房殿に「熊本の道路を忘れたんですか？」と云われる始末で、冷汗のものとなる。己水の老化と共に、

地理を覚えるまでは暫く時間がかかりそうである。なつかしく残っているのは、五高時代の赤練瓦校舎、4年間寮生活した旧医大の丸城内の宇土槽と七重八重の石垣、普通学、いま通勤で通っている大津街道（参勤交替用）の所々に残った杉並木ぐらいであろうか。いまの熊本は変りすぎていて馴れるまで暫く時間がかかりそうである。むしろ新しい思い出の宮崎が馴染みがある。

第3に生活の面である。地理的に当地は便利な場所にあり、文化・物流・仕事などを時間の無駄なく活用できる利便さが有難い。福岡・久留米も近く、夕方の講演会に日帰り出席しても仕事に無理しない。一方、仕事柄からの未練が、時にこうした新しい荷物を背負い込む結果となる。いつものことであるが、転居のたびに過去の物心両面の荷物を引きずりながら、次の場所で新しい荷物を増やしていく“整理下手”を、未だに家内からなじられながら口喧嘩の絶えない毎日を送っている。

“捨てきれない荷物のおもさまへうしろ”

種田山頭火



## 上塚先生を偲んで

山田文夫

思う在分好きなように生きて、余りにも早く逝った友を思う今日この頃です。寂しき事限りなく、在りし日の彼が目には浮かびます。

共にあれば、お互い風のように当たり前で、気にもならない間柄であったのに、この世での存在が消えた今、彼の重みの深さに今更ながらに驚いています。去られるという事は悲しい事です。彼への追憶に在りし日の彼の思い出の2、3を記し、彼への生前の饒としたく在じます。

彼の愛称は、『ブーチャン』名は体を表すと申しますが、ごく親しい間で呼ばれていたニックネームです。

最近の彼を知る方々は、彼の風貌よりスポーツはきっと不得手とお考えでしょうが、なかなか、口を伴って負けず嫌いで賑やかなスポーツマンでした。かつての各大学整形医局・大学内医局対抗野球には、自画自賛で売り込み、サード それ以外のポジションは、No というほどの自信家と頑固さでした。まわりは只飽きれて、自由にさせたものでした。まあ言うだけの機敏、俊敏さもあったようでしたが、多くはエラーと暴投?で勝てる試合を負けて、時には皆の顛蹶を買っていましたが、本人は涼しい顔をしていました。

ゴルフは、私達は経済的理由より遅い時期より始めましたが、お互い我流で楽しみ競い合いました。玉井先生御在住の折りには、師弟仲良く青島のカントリーでプレーをしたものです。彼独持のフォームと早打ち打法で、それでもボギーベースでかなり上手なゴルフでした。相変らずの減らず

口で、和気藹々たるものでしたが、何時の頃からか元気がなくなり、飛距離が落ち、疲れを見せ始めて、時に木陰で座るようになりました。その頃から体の不調を感じていたのでしょうか。自然とゴルフから遠ざかり遂にはその後クラブを手にする彼を見た事はありませんでした。ちょうどその頃私も病を得て手術迄する身となりましたが、幸い結果が良く、現在仕事も何とか可能で月1・2回のゴルフを楽しめるのはまったく幸せて、神仏の恩寵と加護に感謝しています。

当時の彼の無念さは、察して余りあるものと考えています。

学問については、彼は傍目には余り勉強をしているようには見えませんでした。天性頭が良く、きっと他人の努力の1/3くらいの労力で常人以上の収穫を得ていたものだと思います。

医局の頃、救急医療を大学でやっていたので、私達若輩組は、終日待機の状態でした。丁度当時、全身麻酔が導入され、彼は興味を持ったのか、麻酔に非常に熱心で、良く指導して頂きました。今でも元気で活躍されていた彼の姿を思い出します。とにかく、エマーゼンシーが好きで、手術室をこよなく愛し、生き甲斐としていたものでした。手術が終わり、深夜熊本の下通り、銀杏通り界隈の屋台、寿司屋での一杯の味が懐かしく思い出されます。

学会等での歯に衣を着せぬ質問、答弁等は、皆さんに或る種の期待を抱かせるものでしたが、彼の学問に対する飽くなき欲求と真摯な姿であった

ろうと考えています。時には、私も若い先生を困らせるような事はよせよ、といった事もありましたが彼は只、黙って笑いを浮かべていました。彼を失った事は、私達にとって大きな損失であったと考えています。最近、私も彼のいない学会、研究会には、なかなか足が向かなくなったのも事実です。

酒は、彼が飲めなくなった最近まで、一緒に良く飲みました。気が合っていた上に、境遇が同じで、共に強かったのです。共に楽しみました。彼の酒は、嫌みがなく、明るく楽しいものでした。酒の上でのぐちとか中傷等はずいぞ聞いたことはありませんでしたが、大変な美食家で大食漢でしたので、その辺りが残念ながら惜しくも早逝される原因になったのではないかと考えています。

女性については、誰にでも優しいというのではなく、好みは一定していて、細みでヤングな女性であればというタイプでした。

また彼は、私達とは一種異なる感覚の持ち主で、性倒錯とは？ですがその種のバーを愛してよく足を運んでいました。良くもてて、大切にされていたようです。彼が没後、店のママが、彼の逝去を深く謹んで供養をとの申し出があったと聞きまし

た。彼の世間への優しさの一面だったといまさらながら感じています。

彼が一番心残りであったろう御家族は、彼は幸せにも、四男二女の子宝に恵まれました。私など到底及びもつきません。彼を今まで支えてこられた奥様は、彼にとって最高の御伴侶であったと、奥様なしでは、彼の医者としての生活は不可能だったでしょう。御子達は、立派に成人されて、それぞれの道を歩いておられますので彼も一安心でしょう。

彼の臨終に一友人として傍らで看取り、葬儀には微力でも少しお手伝いできたことを喜びとしています。彼の生前の姿、面影を綴ってまいりますと、なぜか良い点ばかりが心に浮かびます。今何処におられるか、知るべくもありませんが、きっと彼らしく振舞っていることでしょう。

何時かは行かねばならぬ避けられぬ道、何処かで会ったら、その時には又変わり無き友情に浸りたいと念じています。良き友であった彼の御冥福を心より御祈りし私達の人生にも数限りない彩りを添えて下さった亡き友を偲びつつ合掌させていただきます。

# 社会ルールを守ろう

## —学会を終えて想う—

田 島 直 也

本年、当教室が担当していた2つの学会—第2回日米整形外科スポーツ医学国際会議（3月20～25日 ハワイ、マウイ島）と第19回日本整形外科スポーツ医学会（7月22～23日 宮崎市）を無事、盛会のうちに終了することができました。ここに多大なる御協力を頂いた同門会会員各位、粉骨碎身の努力をしてもらった教室の事務局員、教室員ならびに関係各位の方々に衷心から御礼を申し上げます。

日米国際会議の方は日米両国の整形外科スポーツ医の研究発表と国際親善をはかろうとするもので、今回は私共が日本側の窓口（日本側の組織委員長）としてお世話させて頂きました。会議はすべて両国の fifty-fifty で一般演題、シンポジウムも同数ということで企画され、教室の桑原講師が担当しましたが、通訳の問題をはじめ国内だけで決定できないこともあり色々と苦勞をかけた点もあったと思います。会場のマウイ島の THE RITZ-CARLT ON KAPALUA は昨年11月完成予定ということで、12月に担当者に会場を視察してもらい学会期間中のハワイへは教室から6名、事務局の温水さん、同門会からも会長をはじめ3名に参加してもらいました。国際会議の事務局を担当した事は、私共にとっても貴重な経験でありました。学会の方は Sports activity をはじめスムーズに運営出来、参加した先生方には満足して頂けたのではないかと考えています。しかし学会前に参加費が高過ぎるとの手紙（無記名）がきたり、学会受付で予定変更、同伴者の参加費拒否等、予想しなかったこともおこりました。

第19回日本整形外科スポーツ医学会の方は教室の平川講師が担当として、活躍してくれましたが、

本学会も会場の宮崎観光ホテル新館が4月に完成予定であったので、図面上で会場を決め当初は見切り発車でした。また、学会第一日目の午前中はスタッフは5:30に集合、6:00から開始の各種の Sports activity の最終チェック（ジョギングでは2kmおきに給水の用意をするなど）を行いました。これは日整会スポーツ実践単位を取れるようにした事もあり、実践参加者はゴルフ111名、テニス14名、ジョギング5名、乗馬9名、マリンスポーツ20名でした。当日は天候の関係で一部のマリンスポーツを中止しましたが、他はどうか無事終了することができました。また外国からのゲスト5人（2人が夫婦で来宮）に対するきめ細かい滞在中の計画を立ててそれぞれ宮崎の夏を enjoy してもらいました。

しかし、宮崎の学会でも時間に遅れる、予定変更する、又、会場受付で、すぐスライドを作ってくれる所を紹介してくれ等の出来事がありました。これらは取り扱いに大きな問題ではないかもしれませんが、2つの学会を担当してみると、医者はどうも共同での社会生活を行なうに不適合で、わがままで勝手きままな所が目立つように思われます。一人よがり、かつルールを守らない、そういう人が医者になったのか、医者で環境でそうなったのか分かりませんが、先ず一社会人として出発する事が肝要ではないかと思われまます。患者を診ず、疾患だけを診る医者が多いという批判が多い昨今、人間を相手にする事が医者の仕事である以上、まず人間関係を大切にし、ルールを守ることが診療を行なう上での第一歩となるのではないのでしょうか。





## 近況報告

弓 削 達 雄

開業して21年が経ち早や57才となりました。開業は30年間と云うのが私の当初の目的でした。これを10年間づつ区切って考えてみますと最後の10年に入ったわけです。初めの10年間はガムシヤラに、次の10年間は余裕を持って、最後の10年間は前の20年間の貯金でやってゆくと云うのが大体の構想でした。そしてその最後の10年を今やっているわけです。現在火曜日の午後は大学先生、土曜日は隔週ごとに県立延岡病院勤務の弟に私の代りをやってもらっています。おかげで大分余裕が出来ました。余裕が出来ますと趣味の方へ心が動きます。今年は私の第一番目の趣味であります囲碁では幸運にも朝日アマ囲碁十傑戦宮崎県大会で6位入賞、祐徳本固坊戦宮崎県大会で3位入賞をはたしました。囲碁は私にとって「人生の友」と

思っております。囲碁を考えることにより探究心を養い又人生の構想を練ることが出来ると思っております。皆さん今からでも遅くありません。囲碁を始めて下さい。2番目の趣味は魚釣りです。現在ニッサン FS800 にて週一回の船釣りを楽しんでいます。対象魚はアジ・イサキ・タイです。6、7月は鮎釣りに転向します。10年前には溪流釣りをしていましたが、なぜかやめてしまいました。3番目の趣味はゴルフです。宮崎カントリークラブ所属でハンディー7をもらっていますが自信はありません。年々衰えています。

家族は母、妻、それに女の子4人です。上の3人は大学卒業間近です。結婚適令期となってきました。皆さんよろしくお祈りします。以上、近況でした。

## 疲れた開業医の妄想

河野 雅行

皆様毎日お元気で過ごしていらっしゃることに  
拝察致します。

私は開業して14年目になります。

開業当時は、地域医療に貢献するという高邁な理想看板を掲げて、張り切っておりましたが、自分が考えた程には、地域からは必要ともされず、時間が経つに連れて看板も古くなり、意気込みも弱くなって参りました。自然と毎日の仕事や暮らしがマンネリ化して来た様です。更に悪いことには、最近、目と髪が薄くなって参りますと共に体力、気力も段々と萎えてきたようです。人生の半ばを過ぎますと自分の先行きが見えた様な気がしまして、若い頃に持っていた目標が何処かに飛んで行った様です。気力体力の衰えに反比例しまして、今まで些細なものでしか無かった夢（欲求不満）が次第に大きくなって参りました。非常に矛盾した、しかも関連性の無い妄想が、忙しい時、自分の意のままに成らない時、余計に次から次へと沸き起こってきて、現実とのギャップの大きさ

に苦しめられております。

ゆっくり眠りたい。ゆっくり休みたい。週休3日欲しい。1か月程休みたい。人に会いたく無い。女房とはなれて暮らしてみたい（これは内緒です）。職員に苛められずに仕事がしたい。充分な良いスタッフが欲しい。毎日魚釣りやゴルフをしてのんびり暮らしたい。腹を凹ましたい。仕事を休みたい。転職したい。宝くじを当てたい。少し持ててみたい。海に行きたい。何か良い趣味を持ちたい。中途半端な忙しさは嫌だ。等々……

どの夢が何時叶うのか全く未定であり、又、積極的に改善しようという時間も意欲も今のところありません。今更後戻りするわけにも行かず、ビデオみたいに人生を早送りすることも出来ず、そのうち何とか成るだろうと淡い夢を見ながら毎日を過ごしております。これからの人生の過ごし方につきまして、皆様方のうち何か良いアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたらご教示下さい。



## ゴルフ 迷える羊の記

永吉 洋次

平成5年5月16日、田島杯同門会ゴルフコンペがハイビスカスゴルフクラブで開催された。本年度は3月の日米整形外科スポーツ国際会議、7月の日本整形外科スポーツ医学会の合間、田島教授は両学会長としてのご多忙のなか、ひとときのゴルフではなかったかと推察いたします。

天気は晴れ。当日の組合せは田島教授・福田医局長・渡辺先生・永吉であった。たいへん光栄なことである。

朝一番のドライバーショットはその日のスコアを左右する、力を抜いてリズムよく振れたら最高だ。

田島教授による試打球が青空に赤い煙をはいて消え、緑のフェアウェイに転がった。次のドライバーもナイスショット。

### HIBISCUS IN NO.10

福田医局長、豪快なスイングのドライバーショット、はるかバンカーを越えて250ヤード、ゴルフは力だ距離なのだ、医局長の足取りが軽い。

渡辺・永吉ともにフェアウェイキープ。二打目、医局長のボールがない。ゴルフはやっぱりフェアウェイキープ、我々 gentleman は誠意をもってボールをさがす。あった、あった、次打はナイスオン、簡単パーである。

福田先生とは始めて一緒にプレーさせてもらったが、こんなに上手だったとは。ひよっとしたら、こっそり練習に励む隠れキリシタンではないかとひそかに思った。

医局長のスコアをご覧ください。No. 11(4)-4.

No. 12(3)-3. No. 13(5)-5. なんと四連続パーである。スイングもリズム・ため・ゆっくり度・はやさ、ともに満点だ、アプローチ・パットもよい、やはりキリシタンだったか。

教授は早朝野球練習の効あってライト・レフトとボールのゆくえが定まらない。

4ホールが終わると茶屋での休憩だ。このゴルフ場はもとサファリパーク、たしか、このあたりはライオンやトラが歩きまわっていたところだ。クラブハウスのコバルトブルーの屋根と太平洋の跳めがすばらしい。

茶屋での話題は医局長のパープレイに集中した。

我々、老獪なゴルフプレイヤーはゴルフはメンタルなスポーツであることを知っている。

以下の話は渡辺先生との会話である。

河野同門会長が言っていたけれど教授より良いスコアを出すといけないんだって！

ゴルフがうまいということは仕事が暇ということかしらん！

ゴルフスイングはプロなみですね！

我々の mund teller はプレッシャーから誉め殺しまで多彩である。

これに答えて、さすが医局長、common senseの持ち主である、休憩後のスコアをご覧ください。  
No. 14(4)-7. No. 15(4)-6. No. 16(3)-6.  
No. 17(4)-5. No. 18(5)-6. Total, 47.

かくして医局長は我々よきパートナーにめぐまれて sense あふれるスコアができあがったのです。

渡辺39、永吉43、田島教授は前半での野球スイングからゴルフスイングへの改造が終わり後半へ夢をつながれた。

#### HIBISCUS OUT NO,1

ダブルベリアのおかげで幸運にも優勝が転がりこんでまいりました、きっと Out No, 2 (5)-9. No, 3 (2)-2. が隠しホールだったのでしょう。

楽しいプレーをさせていただき有り難うございました。

最後になりましたが、毎月、クリニカルカンファレンス三水会を開催して頂き、我々、宮崎の開業医に勉強の機会とご指導、ご鞭撻を賜っておりますこと深く御礼を申し上げます。

昭和49年6月宮崎医科大学が開学いたしました、県民の一人として大学の発展を心より祈っております、来年で20年になろうとしています。

大学先人の真摯なご努力により県民の信頼に足る立派な大学が出来上がりました、ご同慶の至りでございます。整形外科学教室も玉井学長、木村教授、田島教授のご指導のもと俊才が集い、立派な研究・業績が積み重ねられ、今、世界へ羽ばたこうとされています。

田島教授は学生時代バスケットボールの名選手です。学・徳・体、ともにすぐれた教授のもとチームワークよろしく教室の更なる発展と飛躍をお祈りして迷える羊の記といたします。



## 医局長の独り言

福田 健二

『私には無理です。到底やれません。荷が重すぎます。』

「そんな事やってみなくちゃわからんだろう。」

『たとえ引き受けるとしても、まだ時期が早いと思います。』

「まあとにかくやってみたら。」

こんな会話が私と教授、桑原先生との間で交わされたのが去年、年も押し迫った11月でした。

医局長に就任して9か月を過ぎようとしています。はじめは何をどうしていいのかさえわからずにいました。私のように、実績も経験もなく医局に7年振りに戻ってきた人間が、医局長になるということは、平社員がいきなり会社の経営陣の一員になったようなもので、自分が今まで何と無責任で、気楽な人生を送っていたのかを思い知らされました。まがりなりにでも医局の経営の一端を任されてみると、自分の知らないところでいろんな人が知恵を絞り、頭を痛めていたことがわかるようになりました。

医局長になって変わったことが3つあります。1つは人相が悪くなったことです。家内に以前より顔付きが険しくなったと言われ、去年までの写真と比べてみると、なるほど人相が悪くなっています。もう一つは体重が増えたことです。これはひとえに運動不足から来ています。中年太りと言ってしまえばそれまでですが、腹が出て、腹回りがだらしなくなってきました。精神的にゆとりがないと運動しようという気力がなくなり、運動しないから気分転換もできず、気が減入ったまま太

る。太ると体が重くなって、何をするのもおっくうになるという悪循環に陥っています。何かしなければとあせるだけで、「今は仕方がない。」と妙に納得して自分の境遇に甘えているところもあります。もう一つそれに関連して、ゴルフの練習に行かなくなったことです。以前はゴルフの練習に行かないと体がむずむずして気持ち悪かったのですが、夜帰宅する頃には、ゴルフの練習場がしまっていることもあり、だんだんと足が遠のいていきました。たまに、コースに出ると、いい時は何とかごまかしながらやれますが、一度崩れ出すと自分がどのように打っていいのかがわからなくなります。やはり何でも継続していくことは大事なんですね。

医局長に就任したての頃は、あれもしなければ、これもしなければと、今の医局を少しでもよくしようと、大胆な理想を掲げていました。しか整形外科医をめざし永田高見院長との出会いに始ですが何か気忙しいのが医局長でして、その日々の忙しさに気力、体力が徐々に失せていくのが自分でもはっきりとわかりました。最近では少少病気味かなと自己分析しています。というのは、思考力、判断力が以前に比べて極端に落ちているのを感じるからです。医局長の仕事は大変だというのは漠然とわかっている、実際になってみると、こんなに仕事が多くて大変なのかというのが実感です。先輩方の御苦勞を改めて知らされ、何事もなく医局長業務をこなされていたのを考えると、尊敬の念を抱かずにはおれません。私にはつ

くづく適性も能力もないなと考えさせられる今日この頃です。

悪い事ばかり書きましたが、実は医局長になって得たものも大きいのです。医局長になると他の大学の教授や偉い先生方と直接お話しをする機会が増えます。普段、学会場でしかお見掛けしない先生方の人となりと直接触れることができ、意外な面を垣間見たり、感心させられたり、貴重なお話しを伺ったりと日常では得られない経験をすることもあります。また、自分が医局長時代の経験を語って下さり、励ましていただいたこともあります。それともう一つ。酒がちょっぴり飲めるようになりました。皆さん御存知のように、私は下戸ですが、酒席に招かれたり、接待で飲む機会が増えたからでしょうか、それとも体のバランスが

壊れたからでしょうか、少しならいけるようになりました。

医局長に就任して早9か月。野球の練習には出ないし、教授の意に沿わないことも多々ありましたでしょうし、教室員の皆さんに不愉快な思いをさせたり、御迷惑をかけたことも多かったと思います。これまでを振り返り自己採点してみると50点くらいかなと思います。学生なら、落第点ですが、これまで大過なくやってこれたのも先輩方、回りの方々がいろいろとカバーしてくれたり、教室員の皆さんが快く協力してくれた結果だと思えます。残された任期中に何とか失われた『気』のエネルギーを取り戻して、自分流で精一杯努めさせて頂きたいと思えます。これからも宜しくお願い致します。



## 新賛助会員



## 私のプロフィール

尾 田 博

### 〈略歴〉

- S. 40. 5 宮崎江南病院
- S. 41. 9 宮崎温泉病院
- S. 45. 7 教室人事解除
- S. 52. 10 開業
- S. 5. 4 医療法人朋実会 尾田整形外科

### 〈趣味〉

- 青 年 期 野球、哲学、酒、野球部第一期生  
(九大医)
- 壮 年 期 資生堂男性化粧品MG5  
未到目標として  
( Golf.Go.Guitar.Gamble.Girl )

初 老 期 P T A 子供教育のため  
( Piano,Tenis,Alcohol )

老 年 期 P G A 未練のため  
( Philosophy,Golf,Alcohol )

### 〈座右の銘〉

何処迄行ってもまた歩きたくなるようなそんな道を見つけて歩いて行きたい。

宮崎医大の創立発展を無心で祈ってきました。長男が入局させて頂いてからは無心が怪しくなりましたが、ありのままで宜しくお願い致します。

## 「お医者さまになってから」

千代反田 修

三日に一回。一回3cc。一日平均1cc。  
地球人口50億人。男性25億人。発射可能推定人口10億人。  
地球人一日平均発射量1cc×10億人=10億cc≒1000トン。  
人間だけではない。犬、猫、猿にニワトリ、ホッキに赤貝、杉花粉症にU.F.O. 一陸、海、空で放射線障害どころではない—ガガン—いわく地球は青かった。

こんなことを考えるために私は医学を勉強してきたのか。まっとうな医者になるように教授してくれた先生方に申し訳がたたないではないか。すでにわかっている医学のことさえマスターしてないではないか。幼稚園の時に教わった先生が、患者として外来にやってくる。本当に老化現象なのか。やぶ医者にとって都合のよい言葉ではないか。宇宙船に移住すれば痛みはなくなるのかもしれないけれど、それでは昇天してしまわなければならないのか。地球上ではお手上げなのか。未来の医者が見たら笑ってしまうことばかりしている。

いかん／＼飲酒の合間に勉強してきたのが効いてきたのか文章がだんだん文系になってしまった。私は理系出身ではないか。国保の締切りが5日で、社保の締切りが10日だった。よしよし。そうだ、私は麻酔科に在籍していたんだ。

【1年目】採用書類に勤務は6月1日と書いてあったので、国家試験合格発表までの間に船の免

許を取得。合格後は「僕もお医者さまだ」とモーターボートに乗って遊んでいたら、医局から電話。「もう始まっているから早く出てくるように」

引っ越しもせず医局に着いたら、「指導の1ヵ月は済んだので、もう今からいちいち指導はしません。はやく手術室の13号室に行くように」言われた。熊本大学麻酔科入局。

13号室に入ったら「あとをやってて」と言っていた先生は出ていかれた（その先生はドアの穴からのぞいていたのだが）私は何をしようかかわからず椅子に座った。耳鼻科の全身麻酔だな。これが麻酔記録表だな。と、少し余裕が出てきたところで患者さんが動き出した。耳鼻科の先生が困った顔をしてこちらを見る。思わず挿管されている患者さんにむかって「動いたら危ないですよ」と声をかけてしまった。その後、耳鼻科の助教授と廊下ですれちがうたびに「動かないように麻酔してね」と言われるはめになった。

麻酔の神様、加納竜彦先生（現在も麻酔科助教授）辻重喜先生（現在熊本市博愛会病院副院長）をはじめ、何も言わず身体で教えてくれた。学生気分が抜け、技術は奪い取るものという姿勢ができた。理解できるまで考え、そう簡単に質問せず、確信できてから質問する楽しみもわかってきた。

中手（中央手術室）のゴキブリとして一日中、手術室の中で生活する。残飯がなくなりゴキブリは死滅。親戚の家に居候していたが、いつ帰るか心配をかけるため病院前に引っ越す。先輩の言うままに大きなテーブルと大きな冷蔵庫をそろえた



ら、医局のビールが引越してきて宴会場となる。

【2年目】出張先の八代総合病院で膝関節鏡の麻酔をしてたら、「千代ちゃん、整形外科は面白いよ」と言ってくれた先生（岩倉雄一郎先生：麻酔科の先輩で熊本市市民病院麻酔科部長から整形外科に転向され、現在菊池郡大津町室で開業）がいらっしゃる。金属の棒をのぞいて何が面白いのだろうかと思った。のぞき見の趣味はちょっとしかないし、しかしその先生は文献を持ち歩き、今度はこちらでやってみようとか言って、楽しそうに手術してらっしゃる。

そもそも整形外科手術なんて体位をとったり手足を引っ張ったり、いつ始まったのかわからないし終わったあとにギプスなんて巻いて、いつが終了なのかさっぱりわからない。外科手術のように幕が開いてから、閉じるまで。アンコールてなことになる以外はたいいてい拍手で終るとおおいに違う。しかしビルロート胃切除術なんて百年以上も変化のない手術を後生大事にやってるし、何事にも飽っぽい私には、自分で適当に手術してよい整形外科のほうが向いていると思った。それに小学生の時はプラモデルが好きで、思い出としてまだまだ作りたりなかったわだかまりもあった。

先輩（東京医科大学時代の先輩の岡村博道先生）のコネで東京警察病院整形外科に就職。

【2日目】「糸結び覚えた？」「いえ、まだ」「覚えないと手術させないよ」

「急患が来たので診て下さい」と救急受付から。診てもさっぱりわからない。先輩を捜して「美人が来てます」と言ったらすぐに診てくれた。

【6日目】「明日のヘルニアの手術してね」「まだ二回しか見たことがありませんが」「いいからやんなさい」

「急患が来たので診て下さい」と救急受付から。診てもさっぱりわからない。先輩を捜して「美人が来てます」と言ったら、「フーン」と言って診てくれた。

大腿骨転子部骨折 EVANS 分類 TYPE II に C.H.S. を行い、早期離床させたら頸部がラグスクリューを軸に回転してしまった。ラグスクリューは大きなネジだったんだ。

「急患が来たので診て下さい」と救急受付から。診ても不安で、先輩を捜して「美人が来てます」と言ったら誰も来てくれなかった。

【2年目】出張先の公立病院で、「先輩、手術したりないんですが」と言ったら「今週の手術は全部やってください」と。金曜日、朝8時、手術室。体調優れず、体温37.2度。「40度になったら介抱してあげるから」と看護婦さん。午後8時、4例目終了。体温39.8度。「おしかったねー」と看護婦さん達。そのまま研修生室のベットに入る。そっと坐薬をいれて消えた優しい看護婦さん。先輩に冗談は通じないことを知る。

セメント使用の人工関節再置換術でてこずる。歯科の金冠をはずすのに超音波を使ってセメントを破壊するのにヒントを得、歯科医療会社と人工関節抜去装置を開発しようとしたが技術（金属が300度になったり、セメント破壊の前にもろい骨が破壊）および資金難であえなく挫折。

【3年目】「新人の手術は私がよいと言うまでさせてはいけない。君達で懲りているから」と部長。部長手術の隣の手術室で「今なら大丈夫」と、新人にドカーン（初オペのこと）させていたら、いつのまにか部長が後に立っていた。上司とは気の休まる時間がないものをつくづく気の毒になる。

膝がグシャグシャの犯罪者入院。「立って歩けるようになったらまた悪いことをする。社会のために役に立ってもらおう」と、なんとなく説得力のある先輩の意見に、先輩考案の手術法で試し膝になってもらった。皮肉にも完治。牢屋送りになる。お礼参りが心配である。

【4年目】出張先のリハビリ病院で。昼、筋電図の検査が終わり、患者を帰した後、睡魔のため検査ベットで寝てしまった。目が覚めて重い扉を

開け廊下を歩いてたら「先生深夜まで大変ですね」と守衛さん。

とにかく暇な病院で関節鏡手術ばかり。巨大遊離体を取り出そうとして穴から取り出せず、切っていったら結局オープンで手術したほうが早かった。人工靭帯はひっぱりには強いが、傷がつくと容易に切れてしまうことを知る。暇に飽かして鏡視下高原骨折整復術をおこなってみた。鎖骨の前後に分かれた骨折は鎖骨バンドで一見整復位に見えても整復できてないので偽関節になることを知る。TOSSYの分類にあてはまらない肩鎖靭帯正常・烏口鎖骨靭帯断裂の症例は、肩甲骨内側が肩鎖関節を軸に急速に外開きすることによって起きえることを知る。アキレス腱経皮縫合術のワイヤー抜去時の患者の痛みは尋常ではないと言う後輩に付き合い、透視下にワイヤーを引き抜いたらワイヤーは見事にアキレス腱を裂いていた。白蓋回転骨切り術を一年後輩から教わる。ぼやぼやしていたら追い越されてしまった。前に勤務していた病院から「君の手術した陥入爪の患者が爪がはえてきたので手術しといたよ」と先輩から電話があった。医者 of 転勤の多い理由が理解できた。

【5年目】花火を見に来ないかと患者に誘われて遊びに行く。屋上から花火の音だけ聞こえる。「若かったころは家の周りにビルなんかなくて、初めにあのビルが建ち、次にあのビルが建ち…」と老夫婦の話聞きつつ夜がふけた。

「おいしいお店がありますから」と老患者に誘われ、朝早く自宅に遊びに行く。「食事の前に景色の良い所がありますから」と言われタクシーを乗り継ぎ観光地を周り、食事代も払い夜帰宅したら、家族から「おばあちゃんの面倒を見てくれてありがとう」と言われた。

人生経験が私の2倍も3倍もある方々には敬服させられました。

【6年目】夏の海旅行。花火大会が終わったら新人看護婦さんを海に投げ入れる恒例の儀式。真

っ暗な中「私は違う」と叫ぶ女性を他人と思わず海につき落とす。びしょ濡れになった服の下に、女性を感じつつ怒る彼氏の目に喜び。

過去には眼鏡を海に落とすし、運悪くデブの看護婦さんをついだ時はギックリ腰を起こしたり、暗い海には危険がいっぱいだった。

【7年目】認定医試験。緊張して口頭試問の部屋にはいったら、試験官がベッドで寝てらしたので、起こしては気の毒とそっとそっと立っていたら、そのうち気がつかれ世間話で終わってしまった。「試験はむずかしかったです」と部長に報告する。

認定医になれ、これから整形外科をまじめに勉強しようと決意するやいなや新人類医師がはいつてきた。この頃から退職するまで毎日送別会と称して飲み歩く。先輩お疲れでしようからといって手術を奪い合う新人。医局員定数制でトコロテン式に退職させていただく。千代田病院整形外科に就職。

【1年目】飲み歩いていた生活から一転し、まじめにお仕事。勤務3ヵ月目で11キロ減量。3ケタの肝機能は正常にもどる。脂肪肝治癒。健康とはすばらしいものであることを実感。煙草がうまい。

外来受付から「この医者の専門は何か」と大声でしゃべる元気な患者。「専門はありません」と答えたら、「じゃあだめだ」と言って帰っていった。早く専門医にならなくては。

ナヨナヨした足のアキレス腱断裂の患者来院。「先生はスポーツドクターですか」と聞かれ、「いいえ」と答えたら帰っていった。早くスポーツドクターにならなくては。

宮崎医大整形外科同門会に入会させていただける。知らない先生ばかりで緊張した。先輩の松田弘彦先生の髭を見て安心した。更に、年配の先生方、医局長の先生にも気をつかっていただき、安心のあまり食事を全部たいらげてしまった。

【2年目】救急病院のため骨折ばかり。なぜか夜間の開放性骨折が多く、まったく骨折り損のくたびれ儲け。洗浄ばかりで大工どころではない。白衣も車体修理工場の作業着に変身。そんな日々、モルツ、モルツ♪モルツ、モルツ♪うまいんだな～これが。→アルツ、アルツ♪アルツ、アルツ

♪♪痛いんだな～これが。と注射器を差し出す美人の看護婦さんと今日も一日頑張ろうっと。

稿を終えるにあたり、掲載の機会を与えていただきました桑原先生、ならびに同門会の先生方に深謝いたします。





## プロフィール

獅子目 輯

開業して13年になります。義父（外科）と2人だったことや、場所も10号線ぞいの郊外にあるので、整形外科だけでなく他科の患者さんをみることも多く、初めはとまどう事ばかりで、他科の勉強を一からやりなおすことになりました。まず診察室に大きい本棚を作り、救急の本、EKG、胸部X-Pなどの本や、各種内科書それも「図説〜」とか「アトラス〜」とかいう絵の多い、分かりやすい本をそろえました。診察しながら本をみて、本をみながら説明もします。急患のなかには緊急に高次病院へ転送を要するものもあり、いろんな先生に昼夜を問わず御無理を申し上げ、お世話になりました。早目の転送で、間一髪間にあい家族に感謝されたこともありました。「何となくボーとしていて、普段とは違う」と初診したいくつかの症例の中には、次の様な重症だった例があり、それぞれ転送により専門的治療を受け好結果

でした。一つは心房細動による脳血栓で血栓融解剤の投与で元に復し心臓手術を予定された例や、若年性糖尿病で緊急入院となった例や、急性腎不全で透析を受けた例や、アダムスストークス症候群と診断されペースメーカーの処置で完治した例などがありました。整形外科の中でも「ムチウチ症」は金銭問題などがからみ、医学的管理がおろそかになりやすい傾向にありますが、脳卒中を併発したり、甲状腺腫に気づき他で手術を受けたり、大腸癌の合併で手術死亡した例もありました。医師となって整形外科を専攻して以来、どうしても四肢末梢に目がいく欠点がありましたが、開業してからは、整形外科疾患でも全身をみて、局所をみる様努力しました。最近では医学はより細分化、専門化する傾向にある中で、「広く」、「浅く」、「なんでも」と世の中に逆行していると感じている今日、このごろです。

## DNA の仮の宿

山口 和 正

プロフィールをとの事ですので、挨拶を兼ねて書かせて頂きます。

基本型：人畜無害無芸小食 ただし、「食べ残してはお百姓さんに申し訳ない」という first printing が未だに消えず、「据え膳は食べる」を基本とす。頬はこけているが決して痩せているわけではない。

バリエーションとしての趣味的行動形態：

聞く；私は三大Bはいまだにビートルズ、バッハ、ベートーベン。昼にごろりと横たわる最近の生活にはベートーベンはいささか腹に重い。聞き流すにはモーツァルトかショパン。新築の芸術劇場で、バッハのパイプオルガン曲が聴けるのを楽しみにしている。演歌やポップスも嫌いではない。さだまさしも本職は落語家で、その落語家が歌を歌っていると思えば、いい。子宮の粘液がネットリと絡みついたような女の情念をさらりと歌う中島みゆきもすごい。が、こんな女を嫁さんにしたいとは絶対に思わない。最近の歌はめったやたらにコード進行が複雑で、フォークソング時代のコード進行をバロックの時代とすると、今はシェーンベルクほどの時代だとか。おじさんに歌えないのは当たり前なのだ。「いい曲があるよ」と友達に薦められて聴いたのがチック・コリアのソロアルバム。「え、これはドビッシューじゃないの？」と聞いたらジャズだった。以来しばらくジャズにも凝ったが、レコードプレーヤーが壊れてからは殆ど聴かず。その程度のファンだった。

読む、見る；中学の頃から SF が好きで、頭で

想像するだけだったのが最近では映像として見られる（果たして幸か不幸か？）ので SFX 映画が好物。大学生の頃、ハーバード大学医学部の学生だったマイケル・クライトンの SF デビュー作「アンドロメダ病原体」を読んで大ショックを受けた。医学部の講義が退屈なのではない、イマジネーションの不足が自分の頭を退屈にしているのだ（講義中だけでなくバイトも工事現場中心で、いつも脳性マヒという、なんも考えてない状態だった）としおらしく痛感した。今その彼は「ジュラシック・パーク」で健在である。もう一方の映像、ロマンポルノもよく見たが、今のアダルトビデオと比較すればまじめでまともである。

体を動かす；金はないが暇だけはあった学生時代、つないだら開門岳頂上から霧島連峰まで歩いた。桜島夜間一周は年間の恒例行事。大隅・薩摩半島、屋久島、甕島と歩き回り、新婚旅行は屋久島の宮之浦岳と、鹿児島島の自然は満喫した。しかし数年前から腰痛、間欠性跛行が悪化し、前方固定術後静脈炎がおこったりで陸上生活はリタイア。リハビリを兼ねて今は水泳が唯一のスポーツ。宮崎にきたらスキューバダイビングをとと思ったが未だ果たせず。どなたか御教示を。

天敵：酒（ビールか焼酎。最近ではもっぱら霧島）、女（酒で失敗はしない、女で人生を誤ることはないだろう、しかし両方一緒になると自信がない）、カラオケ（聞くだけならいいが、マイクが近づくとハウリングがおこる。昔、口笛を吹いていると、ピアノをやっている奴が「ほう、口笛にも音痴が

あるのか」と呟いた。(このボディブローは効いた。未だに立ち上がれない。)

今の仕事：車椅子の人たちが自由に動き廻れる世の中なら、我々が年老いてからも住みやすい世の中である。療育センターの卒業生には、大いに地域の中で生活し車椅子で街の中に出て行って欲しいと願う。マイナーではあるが、天職と思っている。アインシュタインやカール・ルイスと較べれば、私も知恵遅れの肢体不自由児。医者として脳性麻痺が治せるわけではなし、神にはなれないが、せめて司祭か水先案内人、できれば友人になりたい。「不自由だが不幸ではない」が実感でき

れば幸いである。よく思い出すのが子供の頃に読んだ宮沢賢治の「虔十公園林」。人の幸不幸はこざかしい人智を越えたカオスの星の彼方。これはもっともっと評価されていい日本の名作だと思う。

最近の想い：遺伝子学、動物生態学の進歩を見聞するにつけ、自分のコピーを作るただそのことにのみ DNA が費やしてきた莫大な時間と策略に目眩を感じる。このエゴイスティックなすさまじいエネルギーの消費、その目的・方向性は何なのだろう？結局人間もこの DNA に振り回されているだけなのだろうか？

で、最近の人生訓「人間も所詮 DNA の仮の宿」



## プロフィール

小 牧 一 磨

小 牧 一 磨

生年月日 昭和14年1月10日

住 所 都城市立野町5-5-1

専門科目 整形外科

略 歴 昭和38年鹿児島大学医学部卒業

昭和39年鹿児島大学医学部卒業整形  
外科教室入局

昭和50年都城市年見町にて整形外科  
医院開業

昭和60年都城市立野町にて小牧病院  
開設

現在に至る

昭和39年に整形外科に入局しました頃は全国的  
に整形外科に対する社会的ニーズは高くなく入局

者も少なかった時代でした。

その頃整形外科は脊椎カリエス、LCC、骨切  
術などの手術が盛んにおこなわれ、大腿骨頸部骨  
切はスミスピーターソン釘による内固定がおこな  
われていました。

その後人工骨頭、人工関節があらわれ、整形外  
科が大きく発展していったようです。

私などは古い時代の整形外科医ですので、現在  
の整形外科に追いつかない面が多分にありますが  
大学の先生方のご協力のもとその溝を埋めてい  
ただきたいと考えております。

この度賛助会員として入会させていただきま  
してありがとうございました。

今後共よろしくお願い申し上げます。



### 開業にあたって

佐藤 信博

「よし一つ故郷のために開業しよう。」と思い構想をはじめ三年目、今年一月五日「あたご整形外科」を開業しました。十九床の医院で、整形外科・麻酔科・ペインクリニック科・理学診療科を診療科目としております。

延岡市愛宕町にある当院は地域の方々により親しんでいただけるように、「あたご」と平ガナを院名に当てました。

昭和五十三年昭和大学を卒業し、研修医としてスタートを切った宮崎県立延岡病院整形外科で、整形外科医をめざし永田高見院長との出会いに初まり、多くの先生方のおかげにより、今こうして開業出来ましたこと、心より感謝しております。又、宮崎県立延岡病院、宮崎医科大学、東京通信病院麻酔科、ペインクリニック科で得させていただいた知識と技術を、大いに役立てて参ろうと、毎日診療に励んでおります。

細々と開業するつもりが、構想は大きくなり、周囲の方々より多くの心配をいただきながらの開業となりました。今だ、どうなるか予測はつかぬものの、持ち前のバイタリティーで乗り切らねばと思います。

今は日々の診療に追われ理想としているものとは程遠いのですが、新しいタイプの整形外科開業医として、良い方向へ進めるよう、努力したいと思います。麻酔科で得た貴重な体験を整形外科領域で最大限に生かし、学会等で発表した多くの研究、翻訳した四冊の本も今後生かされる様に、努力していきたいものです。

しかし何を申しましても未熟な私です。同門の先生方の御指導、お励げましをいただけますように、今後共何卒宜しく願いいたします。

私も同門会会員の名を汚さぬ様、がんばって参ります。



## 医院開業と今後の医療

岡 本 義 久

開院して9ヵ月、まだまだ毎月出るほうが多い状態が続いています。しかし地域の中では、次第に知られるようになり、ゆっくりと少しずつ、外来、入院とも増えてきています。

若い住人の多い地域のため、子供の外傷が多く、早く治癒するのに驚いています。

あまり手術は無いだろうと予測していましたが、1時間30分以内の小手術は昼休みを利用して、それ以上かかる手術は、木曜の午後ゆっくりと、全身麻酔の手術は、月1回のペースで医大麻酔科に来ていただいて、行うようにしています。そのお陰で、乳幼児の手術も安心してでき、良かったと思っています。

リハビリを中心にした地域での医療を目指して、100平方メートルの理学療法室、多くのリハビリ機器を揃え、木製の子供用平行棒、ろく木、移動式鏡、肩関節訓練器、バランスボードなどは、日曜を利用して作りました。金属とコンクリートの中での木製品は気持ちを和ませてくれます。

優秀な理学療法士が良くがんばってくれ、リハ助手も飲み込みが早く、患者さんの指導に力を発揮してくれています。

看護婦さん、事務職員、厨房、皆、明るく、和気あいあいと仕事をしています。

開業して、まもなく1才の両側先天性股関節脱

臼（他医にて治療中）が来院生後1か月からR. B.にて治療、脱臼は整復されていない、迷った末、O. H. Tを行う事した。今までは、県立の病院で比較的気楽に行っていた、脱臼整復の治療が、「もし整復できなかったら」と不安の毎日、整復できた時には、祝杯を上げました。こんなに、心が激しく動く自分に自ら驚きながら日々診療を続けています。下肢の変形と小人症の治療にイリザロフ脚延長器を使って矯正しながら、組織延長する、仮骨延長法は、骨の形成が良く、骨移植、プレート固定、抜釘の必要がなく、1回の手術で済む安全な方法として、確立されつつありますが、保健が使えず、大きな負担となります。早く保健適用なることを、願いつつ行っています。

成人の片麻痺、アテトーゼ型脳性麻痺の上肢の筋解離手術も身体にハンディーをもつ人の動作の改善に有用です。

厚生省は、医院と病院を『簡単な治療』と『専門的治療』に分けたいと考えている様ですが、開業するまでの、また、開業してからも、専門の分野を生涯学習しつつ『専門性のある医院』の存在も認める制度にすべきと思います。

今後も地域の中で一般整形外科とリハビリ、専門性のある医療を組み合わせる診療を行ってきたいと考えています。

### NTT 九州病院

伊 勢 紘 平

NTT 九州病院は、1922年（大正11年）7月、熊本通信診療所として開設された病院だそうである。その後、1942年（昭和17年）2月通信病院へ昇格し、長く電信電話公社、及び郵政の職員が利用した職域病院であったが、1981年10月より一般開放され民間の保険医療機関となり、現在に至っている。当病院のモットーは、病院発行のパンフレットによれば、1）説明と同意、2）高度な医療、3）健康管理の三項目があげられている。地域的には、熊本市のほぼ中心である新屋敷にあり病床数203床の立派な病院である。医師数は32名、外来科数は13科で、(月)~(金)の毎日診療を行っている。

この病院に、平成5年1月1日より、伊勢と工藤の2名が、空白となっていた整形外科再開の為に赴任した。当初は、病棟もなく、唯外来のみであったが、既設科の協力を得て、現在では病床19を使用し、(現実にはまだ15床程度の利用)、月平均7~8例の手術を行い、1日40~50名の外来診療をするという毎日である。(この原稿を書いている間に、10月4日、工藤先生に待望の男の子が産まれた。彼の言によると、男前で工藤先生によく似ているとの事、健やかな成長を祈りたい。)

だんだんと症例が増えて、医局の関連病院として、大きくしたいものと考えている。

### 国立療養所宮崎東病院

中 村 誠 司

当院は宮崎市の中心街より東南約6kmの赤江灘に近い閑静な松林に囲まれた場所にある。北は宮崎空港、東はゴルフ場や特別養護老人ホーム宮崎荘、そして県立赤江養護学校に隣接している。

病院の歴史は、昭和25年にアメリカによる対日援助見返資金によって国立赤江療養所の新設が決まり、翌26年に国立宮崎療養所から独立する恰好で設立された。昭和27年に開院し昭和55年4月に現在の国立療養所宮崎東病院に名称が変更された。

当院は現在、長期療養型の慢性疾患（政策医療としての慢性特定疾患を含む）を対象としている。医局の構成は院長を含め内科医が6名、外科医が2名、小児科医2名、放射線科医1名そして理学診療科（整形外科医）1名の12名である。

整形外科は平成5年1月に開設されたばかりで、まだまだこれからの状況であるが、現在外来診療室と担当看護婦を独立させて外来の診療に当たっている。外来患者の多くは60歳以上の高齢者で、従って対象者疾患も退行変性による各関節のOAが主体となっている。病棟は外科との混合病棟で約10床のベットを確保しているが、多くはリハビリ訓練を中心とした診療内容である。

国立病院のリストラが進むなかで本年新設された科であるだけに、co-medical staffとの協力やこれからの展開が重要な鍵になると考え、出来るだけ礎を作るために努力している毎日である。

## 第2回日米整形外科スポーツ医学会国際会議を終えて

桑 原 茂

1993年3月20日、ハワイ マウイ島 ホテルリッツカールトンで迎えた朝は、真っ青な空と海に囲まれ、まぶしい太陽がふりそそぐ朝でした。これから25日までの6日間にわたる学会とは裏腹に、ホテルの部屋のテラスからの光景は、学会には不似合いなりゾート一色、仕事でくるところではないなど言い聞かせながら、同ホテル内の学会場へと足を運びました。すべての準備が整い、最終打ち合わせをすませ、当教室が初めて担当する国際学会の幕開けです。

この国際学会の<sup>ひとみこくう</sup>人身御供（あえてふりがなをふらせて頂きました）、いや大役を仰せつかったのは、『日米整形外科スポーツ医学会国際会議をやることになったよ。担当は桑原君、頼むよ。』という田島教授のさも普通の会話で始まったこの国際会議の担当でした。幾度となくこの『担当』の文字を恨みましたが、言葉は月日を追うごとに人の気も知らず、変遷をとげ、『担当』から『事務局長』となり、いつの間にか『学会運営委員長』となっていました。国際学会なんて発表することすら今まで数えるぐらいいかないのに、まさかやる側の担当になるとは……。でも、学会主催側も参加する側も、どんなにしているともその日は来るわけで、それが成功しようがしまいが終わってしまうという経過をたどるのは何事にも通じること。そう思えば、少しは気が楽になるのを感じました。

今回の国際学会の準備にあたっては、国内の組織委員の先生方の意見の調整はもちろんのこと、アメリカ側との連絡など、時間的余裕をもってしても当初の予定どおりには準備できなかったことは、田島教授をやきもきさせたことと思います（すみませんでした）。

また、学会運営は、本来であれば参加者の会費にてすべてを賄うべきものですが、参加者の会費のみでは賄いきれない多大の費用がかかることが現実問題です。同門の先生方には今回の開催にあたり、快く御支援ならびに御協力を賜りましたこと、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

学会の内容については、同門会新聞にて福田医局長・帖佐先生が述べられているのでここではふれませんが、実りおおき学会であったことを申し添えておきます。

学会を終え、もう10ヶ月が経とうとしています。国際学会担当という機会を与えて頂いた田島教授に、いまは心から感謝していますが、このような担当は、1回のみ経験で十分です。それよりも、もうしばらくは飛行機に乗りたくないという後遺症がでてしまいました。今年も年の瀬を迎えながら、後遺症がとれたら、遊びでハワイに行ってみようと思っています。きっと、自分の還暦の年ぐらいになるでしょうけど。

# 『第19回日本整形外科スポーツ医学会 学術集会の御礼』

平 川 俊 一

平成5年7月22日、23日に宮崎市において第19回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を田島教授のもと、無事に終えることができました。開催決定から約2年の準備期間、また開催中と御支援、御協力を賜り、同門の先生方、関連病院の先生方には深く感謝申し上げます。

学会は、シンポジウム2題、パネルディスカッション、外人特別講演3題、一般演題128題、ポスター53題（549名の参加者）と中央を離れた宮崎の地では盛会であったろうと思います。スポーツ実践にも多数の参加者があり、教授の言われた宮崎の特色を味わって頂けたものと思います。また学会に附属するものとして、役員会、招待者の

御世話等、いろいろな事柄がありました。担当者としては胸を撫でおろした次第であります。数少ない現医局員を中心として関連病院からも手伝いを頂きました。一人で何役も担当していただき、皆さんには忙しい思いをさせてしまいました。しかし全日本レベルの学会運営の経験は、教室にとっても一つの無形の財産に成ったと思います。これからの経験を基に、将来より大きい学会を目指して行けば良いと思います。

皆さんの御協力の御陰で何とか終了する事が出来たと思ひ感謝致しております。

ありがとうございました。



## 野球大会準優勝によせて

### (当教室初参加の昭和55年8月の山口大会の回想)

岡田光司

西日本整形外科野球大会1軍準優勝おめでとうございます。選手の皆様方には猛暑の中での連戦、本当にご苦労様でした。山口大会での輝かしい栄冠ということですが、思い起こされるのは当教室の初参加が13年前の昭和55年8月の山口大会だったということです。当時の選手を紹介しますと(敬称略、順不同)木村(熊本)、田島(宮医大)、渡辺(福岡)、山口(高鍋)、武内(熊本)、山口(川南)、川野(宮崎)、税所(都城)、戸田(宮崎)、平川(宮医大)、岡田(宮崎)の11名です。教室・同門全員の最強力メンバー?によるチーム

で、試合直前までの猛練習にもかかわらず初参加ということもあり、戦績は残念ながらやはり2軍初戦敗退でした。そして勝利の壁の厚さを実感させられながら、なにか面白くない、釈然としない気分で早々に電車で揺られながら宮崎に帰りました。今回の山口大会での素晴らしい戦績は、その時を思い出させてくれましたし、その時の忘れていたわだかまりをようやく解消させていただいたようです。その意味では選手の皆様にあらためてお礼を申し上げる次第です。次は全日本初参加ということですが、奮闘を期待いたします。

## 第36回西日本整形外科親善野球大会

松元 征徳

平成5年8月7日(土)、早朝7時30分、「今年こそは優勝を！」という熱い想いを胸に、田島先生率いる我が宮崎医大整形外科野球チームは遠路山口県へと出発致しました。宮崎から山口までの行程約7時間の貸し切りバスの車内では明日の試合に備えて飲酒禁止令発令（Prof.より）、遠い道のりをただただ明日の試合に備えました。（二軍は盛り上がっている様でしたが……）

翌8日は快晴、第36回西日本整形外科親善野球大会がついに幕を切って落とされ、試合状況を解説しますと、一軍は一回戦目に今回の主催校である山口大学を相手に関本先生のホームラン、松元の2ランホームランと矢野先生の13奪三振という力投で3-0で決勝、二回戦は熊大と対戦、立ち上がり黒木浩史先生の3ランホームランで先取点を取り4-3で逃げ切り勝ち。続く準決勝では鳥取大学を相手に、ホームランを浴びせかけ、打っては守りの好プレーにより、5-4で、ついに決勝戦へと勝ち進んでしまいました。

『優勝』という2文字が田島先生をはじめ、すべての選手の頭をかすめました。この日のためにどれほどの気力をふり絞ったことか……。毎週火曜日と土曜日の早朝6時半からの特訓は、つまり前夜からの影響が大きく、月曜の夜、まして金曜日の夜に飲みに行ったあかつきには、相当きついものがありました。2月、3月などは鶏の

鳴き声を、やっと明るくなってきたグラウンドで聞くのが当たり前でした。それでも、この日のために眠い目をこすりながら、かすんで見えるホームベースの前に立ち、ノックをする田島教授からのボールを受け、積み重ねてきた日々でした。

いよいよ決勝戦、対戦相手は九州大学。柳園先生の好投と矢野先生の2度のダイビングキャッチで予想以上の好ゲームを展開したのですが、九大の守りも堅く、「ボールが止まって見えた」という浪平先生以外は反撃が抑えられてしまい、0-4で力尽きてしまいました。

さて、二軍はと申しますと、昨年以上の熱戦を繰り広げ、また運の良い事に一回戦は不戦勝、二回戦は産業医科大学に快勝、あっという間に準決勝戦に突入しました。相手は大分医科大学。フェンス越しの黄色い声援に支えられ、日頃の練習成果を遺憾なく発揮したのではありますが、惜しくも敗れてしまいました。しかしながら、昨年に引き続き、ベスト4という好成績を残し、流した汗もひとときわ輝いて見えました。

準優勝により宮崎医科大学整形外科学教室開講はじまって以来の快挙ともいえる全国大会出場の切符を手にし、お金の心配をされる福田医局長を尻目に、田島教授の優勝への願いは日に日に燃え上がっていくのです。

## スイス独り暮らし

桑原 茂

本年5月より文部省在外研究員としてチューリヒ（スイス）に2か月間滞在しました。本稿では勉強のことはさておき、久しぶりの海外単身生活を送った感想について述べてみたいと思います。

17年前に訪れたバルグリスト病院から15分ほど離れたシュルテス病院に籍を置き、毎日45分歩いて通勤しました。別に歩かなければならないわけではなかったのですが、太目の身体を絞るため歩け歩けの生活を実行しました。病院のスケジュールは朝7時執刀の手術に始まり、夜8時頃終了のカンファレンスで終了です。2～3件の手術に助手ないし見学者として加わり、昼2時ころまで手術室にいて、その後は5時30分まで自由にX線を見たり、外来を見学したりして過ごします。一般的1日を日記からそのまま引用したものを下記します。一部専門的であるがお許し下さい。

某月某日：AM 6：15出発。AM 7：00手術室入室。手術表では第2例目から助手予定となっている。カメラを用意してTSR（注：人工肩関節置換術）の部屋にいと、ミラノからの留学生が来ないということで急遽変股症に対するTHR（注：人工股関節置換術）の助手として手洗い。グシュエント教授の機嫌はなはだ悪い。スポットルノタイプを使ってのTHRである。この機種は金属のバネ特性を利用したものでイタリア人の考えそうなことだ（実際イタリア人の考案）。アイデアとしては良い。型の如く側方縦切開で関節に入る。大転子はずさないで入っているのはやや展開は狭いが安全だろう。僕は切離するが、彼ら

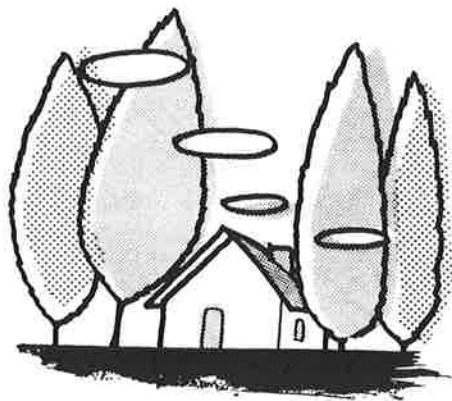
はワイヤーを信用していないとのことである。スクリューを使わない点でこの機種は僕の好み、一度は使ってみたい。AM 10：15 TKR（注：人工膝関節置換術）の助手。LCS型を使用する。脛骨結節を落として進入しているのは不賛成だ。術後リハビリテーションが遅れると思う。再置換には応用できるが初回手術としてはover surgeryだろう。AM 12：00肩板損傷の助手。この手術法は素晴らしい。簡単だし、侵襲も少ない。肩甲上神経さえ気をつければよいので楽な手術である。手術成績については昨日のレポートから満足できるものだ。AM 2：15帰宅。本で行った手術の手術記事の作成とカンファレンスの準備。AM 6：00カンファレンスへ。RA上位頸椎固定術へのPedicule screw 応用について討議。固定位置について脊椎グループとRAグループで意見が異なる。僕の考えは当然後者に近い。自験80例について報告したが、教授は納得、脊椎グループは反発。相当もめたが症状を最優先とすることで概略意見の一致を見る。英語、ドイツ語のチャンポンだが、日本でチャンポンのカルテを書いているのでこの方が良く理解できるような気がする。2件目は患者検討。アラブ系の男性で戦時損傷部位の骨髄炎である。戦時損傷は経験が無いのでカンファレンス終了後話を聞く。とりあえず治療してすぐ前線に戻るとか。将来の切断は覚悟しているようで、『アラーの考え通りに』が最優先であるようだ。僕の思考範囲外。3件目は手関節形成術についてであった。南アフリカのDr. が話題提供したが人

工関節使用基準について批判があった。僕の意見は比較的彼に近いもので、答弁につとめたが短期成績が第1の彼らには納得されないようだった。来週僕の長期成績をプレゼンテーションして、もう一度討議することになった。AM 8:30終了。帰りにチューリヒ湖辺を散歩。日本での3~4時くらいの感覚。アルプスの山々が見える。のんびりしながら夕飯(パンとソーセージとビール1本)を湖岸でとる。

こんな生活を2か月続けましたが、雑用が無いので時間が充分にあり、また学ぶだけの生活であることから精神的にも楽な生活を送ったような気がします。若い頃と違って今回は地に足のついた

外国生活が送れたようで、帰国後すぐ役立つことも多く、実のある留学だったなあ実感しています。現在開発研究をしている人工関節についてもいろいろな意見を得ることができ、はっきりした目的を持った留学の効果をしみじみ感じるこの頃です。読者の皆さんも機会があれば留学し異国での経験を積まれると仕事だけでなく良い人生経験を積むことになることと思います。その時には是非しっかりした目的を持って留学されることをお勧めします。

最後にこのような機会を与えて頂いた学長、田島教授をはじめ大学関係者の皆様に本欄を通じて感謝させていただきます。





## 海外研修にて

黒木俊政

GOTS Travelling Fellow として平成5年6月6日～7月6日、1ヵ月間海外研修をさせていただく機会に恵まれました。GOTSとはGesellschaft für Orthopädische Traumatologische Sportmedizinの略で、ドイツ、オーストリア、スイスの3ヵ国からなるスポーツ医学研究のための学会であります。Travelling Fellow として JOSSM (日本整形外科学会) から私のほか横浜港湾病院整形外科・三木英之先生、弘前大学整形外科・伊藤淳二先生の3名、KOSSM (韓国整形外科学会) 側から Professor Ann、合計4名の Fellow での訪問となりました。訪問地は、Basel, Davos, Ulm, Stuttgart, Köln, Berlin, Rust, Wien, Salzburg, Innsbruck, Munique の11ヵ所と多少めまぐるしい旅行でしたが、大変勉強になりました。スケジュールは6:00に起床し朝食後、7:00から術前術後のカンファランス出席、8:00～14:00手術見学、昼食後 Fellow およびその施設からの医師による発表、夕方ホテルにいったん戻り、19:30ころから夕食およびパーティというのがだいたいのスケジュールでした。土曜、日曜は病院がお休みなので移動日に予定されていることが多く、またスイス外科学会やオーストリア整形外科学会やドイツ・オーストリア・スイス整形外科学会などの学会開催に合わせて訪問地が決定されており、計画性の綿密さから如何にもゲルマン的でした。

スポーツ医学関連の勉強でしたので、手術はほとんどが膝関係の手術でしたが、それ以外にも足

関節や脊椎、肩関節等の手術を見学できました。われわれ Fellow のために手術症例が選ばれていたようですし、手術日を変更してあった施設もありました。また施設によっては手洗いして手術の助手もさせていただきました。手術の内容についてはさすがに高度のものもありましたが、日本と比較して、日本のほうが遅れているとは思いませんでした。しかし直接に世界の一流レベルの手術を肌で感じられたのは幸せでした。1日の手術症例は多いところでは15例ほど行っていました。外来も並行して行っていました。麻酔は膝の症例でも全身麻酔がほとんどで各手術室の隣の部屋で麻酔を行い、搬入搬出に伴う時間を上手に短縮していました。

発表は各施設で行ったほかはオーストリア整形外科学会スポーツ学会およびドイツ・オーストリア・スイス整形外科学会総会で発表の機会を与えていただき、無事に発表できました。しかし発表原稿を読まずに、聞き手の先生達に語りかけるように説得力豊かに発表している彼等と比較するとまだまだ自分の未熟さを感じてしまいました。

システムについても色々なことを知りました。たとえば我々の紹介の際には我々は Orthopedic Surgen であると紹介されます。というのは手術をしない Orthopedist が存在しており、かれらもまた整形外科医であるからです。またオーストリアでは Traumatologist が外傷の初期治療にあっており、骨折や靭帯損傷の新鮮例は整形外科医が手出しをしてはならないシステムになっています。

仮に整形外科医であるあなたが路上で転倒し、コーレス骨折を起こした人に遭遇したらどう対処するのかと質問したところ、自分では対処せず Traumatologist に治療をお願いするとのことでした。また DOZ の資格というのもありました。32歳の整形外科で DOZ の資格を取得した Dr. のパーティに呼ばれました。そこで DOZ の資格について教えてもらったのですが、DOZ とは教授になるべき資質、業績等の条件をクリアした人で大学から与えられる資格です。博士号を取得しているのは当然の前提ですが、業績について質問したところ、半分笑いながら『50kg 位の論文をかけばいいのじゃないかな』と冗談めかしていました。DOZ の資格があれば、教授の空席がある施

設に Apply でき、また教授になれなくてもその地位で長い人は周囲からは Professor と呼ばれていました。そして本来の Professor は Chirman と呼び、混乱を避けています。これ以外にも医療保健の問題や研修システムなど手術内容とは直接関係なくても面白いと感じたり、考えさせられたりすることが多く、実り多き研修であったような気がします。

またこの研修を通して、ドイツ・オーストリア・スイスの多くの整形外科の先生方と知り合いになったことも大変な収穫であったと感じています。

最後にこの研修の機会を与えてくださいました教室の田島教授、および支援していただきました教室の先生方や同門の先生に深謝いたします。



三木英之先生 高沢晴夫先生 本人 伊藤淳二先生  
ドイツ・オーストリア・スイス整形外科学会総会会場にて

## 医局旅行を終えて

松岡 知己

今年の医局旅行は諸般の理由により例年の8月下旬の日程と異なり11月27日、28日熊本の阿蘇に温泉旅行となりました。2、3日前の真冬並の寒気団による道路凍結の心配がありましたが、前日の雨と共に寒さも緩み晩秋の青空のもと5台の乗用車に分乗して阿蘇路に旅立ちました。(最終的には8台となり)。

途中人吉にて川添先生と合流し、熊本駅で田島教授を向かえて最初の目的地「お猿の里猿まわし劇場」に到着。劇ではテレビでおなじみの芸等にて楽しんだが、猿以上に柳園先生の子供の昴太君の台詞が会場を大爆笑に誘っていました。次に阿蘇の草千里、中岳の火口見学に行き、自然の雄大さと11月下旬の阿蘇の寒さを体験しました。その後宿泊先の阿蘇白雲山荘にチェックインし、自分の部屋に行き早速温泉に1番乗りを企てたが浴場に入ろうとした時には田島教授はすでに風呂入り着替えて出て行かれた。改めて教授の行動の速さに感心させられた。宴会ではおいしい料理に舌

鼓をうち、医局長の福田先生の幻の秘技必殺タバコ落し、第三回宴会懇話会で新入局員の日常生活の暴露話で盛り上がった。その後場所を移しての2次回では蛸原先生のキンタの大冒険の歌、関本先生のジャイアンツの歌にて盛り上がり田島教授より黒木俊政先生、松元先生に宮崎医科大学整形外科の歌を作るようにと命令が下った。

翌朝は風呂に入ったり朝食をとった後出発しました。最初数鹿流滝を見学した後、大観峰で阿蘇の景色を眺める組と、乗馬の組、グリーンピア南阿蘇でゴーカートに乗る組に別れて楽しんだ後、くま牧場で熊のショーを見たり子熊を抱いたりしました。そして12支の動物見学した後宮崎に向けて岐路につきました。宮崎に入る頃には夜空に満月が輝いていた。

今回の旅行は天気に恵まれ、1台の不運な車を除いては大きなトラブルもなく帰って来れたのが1番の幸いでありました。

医局旅行

— 阿蘇 —

平成5年11月27日～28日



阿蘇くま牧場にて



草千里をバックに Prof. 田島



幹事の松岡先生のあいさつにより、“夜の部開始”



見つけた!!SL機関車 86くん “阿蘇BOY”



宿泊先の“阿蘇 白雲山荘”の前で



“熊本ラーメンに舌鼓”

## 新入医局員自己紹介 (順不同)



氏名 蛭原 啓文  
生年月日 昭和34年 1月29日生  
出身高校 宮崎西高等学校  
出身大学 防衛医科大学校  
血液型 O 型

初めまして、今年4月に入局致しました、蛭原です。私は昭和58年防衛医科大学校を卒業し同付属病院にて一般外科・麻酔科を中心に約2年間研修した後、東邦大学形成外科に入局し約8年間形成外科、中でも皮弁・再建外科を中心に勉強をしてまいりました。

その間結婚もし、娘・息子もでき家族4人川崎で暮らしておりましたが、私の実家が宮崎である事、形成外科については満足すべきレベルに達し、さらに自己の再構築のために整形外科研修をしたいという気持ちも強く、今回宮崎医科大学整形外科での研修を志願致した次第です。今後の展望として、整容面主体の形成外科的な部分と機能面を重視した整形外科的な部分を合わせ持つ、いわゆる機能・整容再建外科といった形で自分を完成させたいと考えております。

振り返れば、学生時代はラグビー部に所属し怪我の度にラグビー部OBの整形外科の先生にお世話になり、形成外科時代は整形外科の先生と仕事をする事も多く、何かと整形外科には縁の深い自分だと思っています。

入局して約半年になりますが、医局は大変なじみ易く先生方は皆様親切にご指導下さり、気兼ね無く話もでき、これならば円滑な整形外科研修が望めると一安心しております。

今後はその好意に甘える事なく、整形外科研鑽につとめようと思います。ちょっとおっちょこちょいな所はございますが、同門会の先生方、これからもよろしくご指導お願いいたします。



氏名 川添 浩史  
生年月日 昭和43年 6月14日生  
出身高校 都城泉ヶ丘高校  
出身大学 香川医科大学  
血液型 AB型

昨年末、そろそろ自分の進路を決めなくてはいけない時期にあり、悩んでいました。整形外科は早い時

期から志していましたが、学生生活を送った香川に残るか、故郷である宮崎に帰ってくるかと言う事で迷っていました。冬休みに帰省した際、こちらの何人かの先生と直接会って話をしていただき、その時の印象が良かったこともあり、宮崎医大整形外科教室にお世話になることに決めました。とはいえ、宮崎医大は自分にとって全く新しい環境であり、その事に対する不安感がありました。

実際仕事が始まってみると、医局の雰囲気がとても明るく、思っていた以上にすんなりととけこんでいくことができました。又、久しぶりに宮崎で生活を送ってみて、宮崎の人的なよさを強く感じました。良い選択をしたと思っています。

まだ、やっと整形外科医としての一步を踏み出したばかりで、毎日のすべてが勉強であり、回りの先生方に少しでも迷惑のかからないようにするだけで精一杯の状態です。一日も早く一人前の整形外科医と成れるよう、多くの先輩方の一言一言を吸収していきたいと思っています。今後とも、ご指導のほど宜しくお願い致します。



氏名 塩月 康弘

生年月日 昭和41年12月10日生

出身高校 延岡高校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 O 型

入局してもう数ヶ月経ちました。入局当初は1日あたり看護婦さんに10回、指導医の帖佐先生に10回ずつ程怒られていましたが、現在も同じ位怒られていまして進歩していない様です。

学生時代は特にスポーツはやっていませんでしたが、音速を超えるスピードで移動する帖佐先生の回診で足腰を、手術の足持ちで腕を、松元先生には肝臓をきたえてもらい、健康的な日々を送っています。

これからも諸先輩方にいろんな部分をきたえてもらいつつ、頑張っていこうと思います。



氏名 野辺 達郎

生年月日 昭和42年6月19日生

出身高校 宮崎南高校

出身大学 久留米大学

血液型 A 型

宮崎南高校出身で久留米大学を卒業し、今年より整形外科に入局させていただきました。入局して5ヶ月程たちまして、医局の雰囲気には慣れましたが、仕事において周囲の先生方や看護婦さん達に御迷惑をか

けばなしで自分の未熟さを痛感しております。

学生時代までのだらけた生活とは異なり臨床の現場に立つてみると人命の尊さ、また医師として責任の重さを実感しております。

現在脊椎班に所属し主に脊椎関係の患者さんを中心に受け持っておりますが、幸い周囲の諸先生方には親切に御指導していただき感謝しております。

私が何故整形外科を選んだかといいますと、これからの日本は高齢化社会をむかえ、老人の慢性変形性疾患が増えてくるでしょうし、外傷の分野にも多少興味があったからです。今は何も知らない若輩者ですが早く人間的、技術的に一人前の医師になれる様努力していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひ致します。



氏 名 濱 田 浩 朗

生年月日 昭和40年4月8日生

出身高校 県立鶴丸高校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 O型

今年宮医大を卒業し、入局させていただきました。出身は鹿児島です。私は高校2年の時、文系、理系を選択する際、国語を週8時間も勉強しなかつたので、迷いながらも理系へ進みました。高校3年の時、共通一次終了後今さら法学、経済学に進むわけにもいかず、医学部 or 工学部にまでしほり込みましたが、浪入するハメになりました。二度目の共通一次の後には、医学部に一本化し、宮医大へ入学することができました。入学後私は元来読書が好きだったので、本ばかり読んでおりましたが、医学書は本棚へかざっていただけだったので基礎医学は2回勉強させていただきました。そのため、教養、基礎医学の諸先生方とは親しくさせていただき、誠に感謝の意にたえません。

臨床医学に入ると、少し体調が悪くだけでも医学書を読むようになり、なるほどこれが興味を持って勉強するという事なのかと、生まれて初めて気付きました。

今年医師の仲間入りをさせていただき、宮医大整形外科学教室に御世話になることとなり喜んでおります。このような私ですが、皆様、御指導の程宜しく御願ひ申し上げます。

# 教室同門の研究業績

(1992. 1月～1992. 12月まで)

## ◆著 書

1 腰部脊柱管狭窄症. 今日の診断指針.

田島 直也

亀山 正邦, 亀田 治男, 高久 史磨, 阿部 令彦編集,  
医学書院, 東京, 1268-1269, 1992.

2 周産期麻酔 Perinatal Anesthesia

編集 John W.Scannon, 訳 川島 康男 佐藤 信博  
真興交易株式会社出版, 1992

## ◆原著および論文

1 股関節症の成績不良例の検討

長鶴 義隆 帖佐 悦男 森田 信二 柏木 輝行  
園田 典生 田島 直也  
臨床整形外科. 27巻1号: 87-91, 1992

2 股関節症に対する外反骨切り術の成績

柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 松元 征徳  
松岡 知己 田島 直也  
整形外科と災害外科. 40(3): 905-907, 1992

3 Chemonucleolysis における細胞外マトリックスの微細構造

戸田 勝 田島 直也 伊勢 紘平 山口 一郎  
中村 誠司 林 透 住吉 昭信  
整形外科と災害外科. 40(3): 1315-1318, 1992

4 Patient-controlled Analgesia(PCA) による術後疼痛管理

黒木 俊政 坂本 康典 伊勢 紘平 田島 直也  
武内 晴明 押川紘一郎  
整形外科と災害外科. 40(3): 1324-1326, 1992



- 5 椅坐位からの立ち上がり動作の分析 (第2報)  
川越 正一 岡本 義久 内田 雄 長倉 紘一  
田島 直也 山口 一郎  
整形外科と災害外科. 40 (3) : 1383-1386, 1992
- 6 腰椎椎間板ヘルニアに対する Love 法の術後成績  
植村 貞仁 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
谷口 博信 田辺 龍樹  
整形外科と災害外科. 40 (4) : 1447-1450, 1992
- 7 MRI による腰仙部神経根の検討—腰部椎間板ヘルニア例について—  
谷口 博信 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
植村 貞仁 田辺 龍樹  
整形外科と災害外科. 40 (4) : 1463-1465, 1992
- 8 中高年のスポーツ障害  
田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
臨床スポーツ医学. 9 巻4号 : 369-372, 1992
- 9 成人スポーツ選手の腰痛  
田島 直也 黒木 俊政  
脊椎・脊髄ジャーナル. 5 巻5号 : 337-342, 1992
- 10 頸髄麻痺症状を呈した RA 患者の手術成績  
桑原 茂 田島 直也 久保 紳一郎 松本 宏一  
日本パラプレジア医学会雑誌 5 巻1号 : 104-105, 1992
- 11 腰部椎間板ヘルニアの局在性と CTM の有用性について  
田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
谷口 博信 植村 貞仁  
西日本脊椎研究会誌. 18巻1号 : 18-21, 1992
- 12 頸椎椎間板ヘルニアの MRI 所見  
福田 健二 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
平川 俊一 谷口 博信  
西日本脊椎研究会誌. 18巻2号 : 249-252, 1992

- 13 整形外科領域におけるスポーツ傷害について  
田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
臨床スポーツ医学. 9巻：25-26, 1992
- 14 股関節手術における自己血輸血とエリスロポエチンの有効性について  
帖佐 悦男 長鶴 義隆 柏木 輝行 森田 信二  
田島 直也  
整形外科. 43巻7号：1010-1012.
- 15 国体選手の健康管理に対するアンケート結果—宮崎県と全国を比較して  
帖佐 悦男 田島 直也 押川 紘一郎  
宮崎県医師会医学会誌. 16：180-183, 1992
- 16 整形外科スポーツドクターの問題点と今後の展望  
獅子目 賢一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
宮崎県医師会医学会誌. 16：199-201, 1992
- 17 本県国体選手の健康管理について—指導者に対するアンケート結果—  
帖佐 悦男 田島 直也 平川 俊一 戸田 勝  
寺本 憲市郎  
宮崎県医師会医学会誌. 16：336-339, 1992
- 18 投球動作時の腰のバイオメカニクス  
田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
黒木 俊政  
九州スポーツ医・科学会誌. 4巻：63-67, 1992
- 19 アマチュアジュニアボクシングによるスポーツ障害について  
獅子目 賢一郎 山口 守 田島 直也 平川 俊一  
黒木 俊政  
九州スポーツ医・科学会誌. 4巻：117-120, 1992
- 20 長距離および短距離選手の体力特性（第2報）—血液検査および下肢筋力検査から—  
黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 中村 真由美  
臨床スポーツ医学. 9巻：164-165, 1992

- 21 腰椎手術のポイントー経椎弓根腰椎椎体固定術ー  
田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
整形・災害外科. 35巻：935-941, 1992
- 22 骨粗鬆症の治療ー骨折治療ー脊椎  
田島 直也 桑原 茂  
整形外科. 43巻8号：1189-1195, 1992
- 23 下肢悪性腫瘍に対する患肢温存手術の機能予後  
福田 健二 黒木 隆男 桑原 茂 田島 直也  
整形外科と災害外科. 41巻2号：479-482, 1992
- 24 股関節症に対する THR の成績  
柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也  
整形外科と災害外科. 41巻2号：653-656, 1992
- 25 慢性関節リウマチにおける手指の変形  
植村 貞仁 田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂  
黒木 俊政 三股 恒夫  
九州リウマチ. 12巻：37-39, 1992
- 26 喘息重積発作患児に対するセボフルレン麻酔  
水谷 明男 瀬戸口 薫 佐藤 信博 谷口 一男  
本多 夏生  
臨床麻酔. 17 (7)：967-968, 1992
- 27 寛骨臼球状骨切り術 (SAO) における私の工夫, コツ  
長鶴 義隆  
Hip Joint, 18：55-59, 1992
- 28 末期股関節症に対する外反骨切り術の適応と成績  
長鶴 義隆 立山 洋司 黒田 宏  
整形外科, 43 (12)：1679-1686, 1992
- 29 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の中期成績  
長鶴 義隆 立山 洋司 黒田 宏  
中部日本整形外科災害外科学会誌, 35 (4)：999-1000, 1992

- 30 Perthes 病に対する大腿骨骨切り術と Salter 骨盤骨切り術併用の適応  
長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行 田島 直也  
日本小児整形外科学会誌, 2 (1): 1-6, 1992
- 31 X 線診断 Q&A  
長鶴 義隆  
整形外科, 43 (13): 1939-1940, 1992
- 32 慢性関節リウマチの中心性脱臼に対する人工股関節全置換術 fibrin glue を併用した Heywood 法による骨移植の検討  
税所 幸一郎 田島 直也 Martti Hamalainen  
Mauri Lehtimaki Mauri Kammonen Aarre Repo  
Mikko IKavalko  
日本整形外科学会雑誌, 66: S 116, 1992
- 33 RA 下肢多関節人工関節置換術の評価  
税所 幸一郎 木村 千仞 田島 直也 伊勢 紘平  
桑原 茂  
人工関節研究会記録, 22: 25-26, 1992
- 34 RA 股関節における中心性脱臼の発生機序- MRI による関節内因子の検討-  
谷口 博信 麻生 邦典 桑原 茂 伊勢 紘平  
田島 直也  
日本整形外科学会雑誌, 66: S 115, 1992
- 35 上位頸髄損傷の一例  
久保 紳一郎 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
日本パラプレジア医学会雑誌, 6 (1): 118-119, 1992

## ◆症例報告

- 1 遠位上腕二頭筋腱皮下断裂の一例  
税所 幸一郎 黒木 龍二 田島 直也  
整形外科. 43巻13号: 1934-1935, 1992

2 頭蓋内より転移したと思われる大腿骨血管周皮細胞腫の一例

黒木 浩史 森田 信二 永井 孝文 上塚 満

黒木 隆男 河野 正

宮崎県医師会医学会誌. 16:273-227, 1992

◆総 説

1 整形外科領域におけるスポーツ障害について

田島 直也

宮崎県医師会医学会誌. 16:1-8, 1992

2 書評『スポーツ障害のメカニズムと予防のポイント』

田島 直也

臨床スポーツ医学. 9巻8号:960, 1992

◆学会報告

1 当科での脊髄腫瘍例

矢野 浩明 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一

平川 俊一 長田 浩伸 末永 治

第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

2 転移性脊椎腫瘍に対して, Pedicle screw system を使用した1例

長田 浩伸 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一

平川 俊一 矢野 浩明 末永 治

第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

3 先天性股関節脱臼の初期治療経験

寺本 憲市郎 田島 直也 長鶴 義隆 帖佐 悦男

柏木 輝行

第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

4 第2頸髄損傷の一例

末永 治 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一

松本 宏一 田辺 龍樹

第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

5 背部皮下に触知された巨大神経鞘腫の1例

谷口 博信 長田 浩伸 松本 宏一 平川 俊一  
桑原 茂 田島 直也  
第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

6 四肢末梢神経に発生した Schwannoma 4例について

松岡 知己 田島 直也 戸田 勝 中村 誠司  
金井 純次 黒木 隆男  
第23回宮崎整形外科懇話会, 1992, 1, 宮崎

7 年長児筋性斜頸の治療経験

金井 純次 田島 直也 戸田 勝 中村 誠司  
第8回九州小児整形外科集談会, 1992, 1, 福岡

8 小児の環軸椎亜脱臼例

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
谷口 博信 田辺 龍樹  
第8回九州小児整形外科集談会, 1992, 1, 福岡

9 R A 下肢多関節人工関節置換術例の評価

税所 幸一郎 木村 千仞 田島 直也 伊勢 紘平  
桑原 茂  
第22回人工関節研究会, 1992, 1, 神戸

10 ランニングの医科学的考察

田島 直也  
熊本臨床整形外科医会, 1992, 2, 熊本

11 長距離陸上選手の高クレアチンキナーゼ血症についての一考察

黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平  
第8回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 2, 宮崎

12 スポーツシューズの最近の傾向

押川 紘一郎 田島 直也  
第8回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 2, 宮崎

- 13 本県国体選手の健康管理について (指導者に対するアンケート結果)  
帖佐 悦男 田島 直也 平川 俊一 戸田 勝  
寺本 憲市郎  
第8回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 2, 宮崎
- 14 宮崎県のスポーツ障害について  
尾田 朋樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
第8回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 2, 宮崎
- 15 中高年の整形外科領域におけるスポーツ障害  
田島 直也  
第54回広島県臨床整形外科医会研修講演会, 1992, 3, 広島
- 16 Chemonucleolysis における細胞外マトリックスの微細構造  
戸田 勝 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
第4回日本経皮的椎間板摘出術研究会, 1992, 3, 東京
- 17 経皮的椎間板摘出術施行後椎間板炎, 椎体炎を続発したと考えられる1例  
矢野 浩明 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 田辺 龍樹  
第4回日本経皮的椎間板摘出術研究会, 1992, 3, 東京
- 18 D-ペニシラミン服用中のリウマチ患者にみられた重症筋無力症の1例  
松田 寿義 木村 千仞 税所 幸一郎 田島 直也  
伊勢 紘平 桑原 茂 市原 正彬 川崎 渉一郎  
第3回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会 (第40回九州リウマチ研究会), 1992, 3, 福岡
- 19 慢性関節リウマチ治療中にIgAの著減をきたした2症例  
税所 幸一郎 木村 千仞 松田 寿義 鶴岡 一人  
田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂  
第3回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会 (第40回九州リウマチ研究会), 1992, 3, 福岡

20 慢性関節リウマチにおける手指の変形について

植村 貞仁 田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂  
黒木 俊政

第3回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会（第40回九州リウマチ研究会），1992，3，福岡

21 人工股関節置換術後の脱臼

税所 幸一郎 木村 千俣 津曲 孝康 鶴岡 一人  
田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂

第5回宮崎県リウマチ研究会，1992，3，宮崎

22 脊椎のスポーツ傷害

田島 直也

宮崎市郡外科医会，1992，3，宮崎

23 R A 股関節における中心性脱臼の発生機序－MRI による関節内因子の検討－

谷口 博信 麻生 邦典 桑原 茂 伊勢 紘平  
田島 直也

第65回日本整形外科学会学術集会，1992，4，福岡

24 慢性関節リウマチの中心性脱臼に対する人工股関節全置換術－fibrin glue を併用した Heywood 法による骨移植の検討

税所 幸一郎 田島 直也 Martti Hamalainen Mauri Lehtim

aki

Mauri Kammonen Aarre Repo Mikko Ikavalko

第65回日本整形外科学会学術集会，1992，4，福岡

25 末期股関節症に対する外反骨切り術の適応と成績

長鶴 義隆 立山 洋司 黒田 宏 工藤 勝司  
田島 直也 帖佐 悦男 柏木 輝行

第65回日本整形外科学会学術集会，1992，4，福岡

26 脊椎後側方固定術の骨癒合に関する各種画像評価の比較

桑原 茂 田島 直也 松本 宏一 平川 俊一  
谷口 博信 田辺 龍樹

第65回日本整形外科学会学術集会，1992，4，福岡



27 腰椎後側方固定術の成績

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
第65回日本整形外科学会学術集会, 1992, 4, 福岡

28 整形外科の病診連携「医師会病院の立場から」

三股 恒夫 大田 博人 伊勢 紘平 田島 直也  
第65回日本整形外科学会学術集会, 1992, 4, 福岡

29 形状記憶合金による脊柱側彎の矯正に関する研究

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
第26回日本側彎症研究会, 1992, 4, 広島

30 中・高年のスポーツ障害

田島 直也  
弘前大学医学部整形外科月例研究会, 1992, 5, 弘前

31 実業団柔道選手の腰部障害 (第3報)

黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 平川 俊一  
押川 紘一郎  
第18回日本整形外科スポーツ医学会, 1992, 5, 軽井沢

32 スポーツ障害と予防—スポーツ医学の立場から—

田島 直也  
人吉市医師会生涯教育研修会第50回記念市民のための公開スポーツ医学  
講座, 1992, 5, 人吉

33 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の中期成績

長鶴 義隆 立山 洋司 黒田 宏  
第76回中部日本整形外科災害外科学会, 1992, 6, 四日市

34 腰椎分離沁り症に対する後側方固定術例

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
第37回西日本脊椎研究会, 1992, 6, 福岡

- 35 Sports Injuries in Middle Aged Athletes—second report—  
K.Fukuda N.Tajima S.Kuwahara S.Hirakawa  
T.Kuroki  
The 2nd Japan Korea Joint Meeting of Orthopedic Sports Medicine ,  
1992, 6, Yokohama
- 36 頰部脊柱管拡大術の経験  
鳥取部 光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
第83回西日本整形・災害外科学会, 1992, 6, 北九州
- 37 宮崎県におけるスポーツ傷害について  
尾田 朋樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
第83回西日本整形・災害外科学会, 1992, 6, 北九州
- 38 股関節臼蓋前方部の三次元被覆度の検討  
帖佐 悦男 長鶴 義隆 田島 直也  
第83回西日本整形・災害外科学会, 1992, 6, 北九州
- 39 R A股関節における中心性脱臼の成因  
金井 純次 伊勢 紘平 桑原 茂 田島 直也  
第83回西日本整形・災害外科学会, 1992, 6, 北九州
- 40 リウマチ膝に対するセメント非使用人工関節置換術の経験  
税所 幸一郎 津曲 孝康 鶴岡 一人 木村 千似  
桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
第83回西日本整形・災害外科学会, 1992, 6, 北九州
- 41 癌性疼痛に対する無水アルコールによる腰部神経根ブロックの経験  
黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 押川 紘一郎  
第21回日本脊椎外科学会, 1992, 6, 神戸
- 42 整形外科的脊椎疾患に対する筋電図検査法について  
中村 誠司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
第3回宮崎県脊椎・脊髓研究会, 1992, 6, 宮崎

- 43 Segmental square spinal instrument による後方固定術の適応と成績  
桑原 茂 田島 直也 松本 宏一 平川 俊一  
第7回日本脊髄外科研究会, 1992, 6, 札幌
- 44 陳旧性前距腓靭帯損傷に対する Watson-Jones 法の小経験  
松元 征徳 黒木 俊政 田島 直也 河野 雅行  
長鶴 義隆 三股 恒夫  
第24回宮崎整形外科懇話会, 1992, 6, 宮崎
- 45 小児の環軸椎亜脱臼例  
鳥取部 光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
第24回宮崎整形外科懇話会, 1992, 6, 宮崎
- 46 Von Recklinghausen 病に巨指症と正中神経腫瘍を合併した一例  
工藤 勝司 戸田 勝 中村 誠司 金井 純次  
田島 直也  
第24回宮崎整形外科懇話会, 1992, 6, 宮崎
- 47 Knowles pin 法による大腿骨頸部内側骨折の治療経験  
谷口 博信 末永 治 市原 正彬  
第24回宮崎整形外科懇話会, 1992, 6, 宮崎
- 48 スポーツ傷害と予防  
田島 直也  
長崎県スポーツ医・科学研修講座, 1992, 6, 長崎
- 49 腰痛の臨床  
田島 直也  
腰痛研修会, 1992, 7, 大分
- 50 腰痛症に対する骨盤ベルト  
柏木 輝行 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
第4回日本理学診療医学会, 1992, 7, 高知

- 51 特発性側彎症における側彎体操  
 中村 真由美 日高 隆 伊勢 紘平 田島 直也  
 第15回宮崎リハビリテーション研究会, 1992, 7, 宮崎
- 52 国体選手の整形外科的メディカルチェック  
 樋口 潤一 田島 直也 伊勢 紘平 帖佐 悦男  
 第9回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 7, 宮崎
- 53 柔道選手における脊椎分離症  
 黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 平川 俊一  
 樋口 潤一 押川 紘一郎  
 第9回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 7, 宮崎
- 54 五ヶ瀬ハイランドスキー場におけるスキー外傷の実態  
 柳園 賜一郎 松田 寿義 田島 直也 桑原 茂  
 平川 俊一 松本 宏一  
 第9回宮崎県スポーツ医学研究会, 1992, 7, 宮崎
- 55 Spinal Instrumentation の適応について  
 田島 直也  
 第8回高知腰痛セミナー, 1992, 7, 高知
- 56 腰痛の臨床 (腰痛について)  
 田島 直也  
 長崎大学公開講座—腰痛のリハビリテーション—, 1992, 8, 長崎
- 57 整形外科領域におけるスポーツ障害と予防  
 田島 直也  
 平成4年度宮崎市郡医師会看護婦夏期研修会, 1992, 8, 宮崎
- 58 RA下肢多関節障害患者の歩行解析  
 麻生 邦典 桑原 茂 川越 正一 税所 幸一郎  
 伊勢 紘平 田島 直也  
 第21回東日本リウマチの外科研究会, 1992, 8, 横浜

- 59 DL-lysine-acetylsalicylate 関節内注入療法について  
 桑原 茂 税所 幸一郎 伊勢 紘平 田島 直也  
 第21回東日本リウマチの外科研究会, 1992, 8, 横浜
- 60 上位頸髄損傷の1例  
 久保 紳一郎 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
 松本 宏一  
 第27回日本パラプレジア医学会, 1992, 9, 札幌
- 61 慢性関節リウマチと腎障害-腎生検例について  
 税所 幸一郎 津曲 孝康 尾田 朋樹 木村 千仞  
 郡山 和夫 竹林 茂夫 桑原 茂 田島 直也  
 第4回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会(第41回九州リウマチ研究会), 1992, 9, 熊本
- 62 人工膝関節置換手術例の合併症について  
 伊勢 紘平 桑原 茂 税所 幸一郎 田島 直也  
 第4回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会(第41回九州リウマチ研究会), 1992, 9, 熊本
- 63 慢性関節リウマチに米粒体を充満した三角筋下滑液包炎を合併した1例  
 津曲 孝康 税所 幸一郎 尾田 朋樹 木村 千仞  
 第4回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術講演会, 1992, 9, 熊本
- 64 慢性関節リウマチに合併した大腿骨頸部骨折の検討  
 税所 幸一郎 津曲 孝康 尾田 朋樹 木村 千仞  
 桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
 第20回日本リウマチ・関節外科学会, 1992, 9, 横浜
- 65 RA足関節病変に対する固定術と人工関節置換術の成績  
 桑原 茂 田島 直也 伊勢 紘平 管野 卓郎  
 第20回日本リウマチ・関節外科学会, 1992, 9, 横浜
- 66 持久性トレーニングにおける Creatine Kinase(CK)の動態変化  
 黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平  
 第7回日本整形外科学会基礎学術集会, 1992, 10, 東京

- 67 腰仙部神経根の電気生理学的研究—加齢に伴う下肢末梢神経の変化について  
中村 誠司 田島 直也  
第7回日本整形外科学会基礎学術集会, 1992, 10, 東京
- 68 大腿骨頭被覆面積の計算法 (股関節単純正面像および Faux Profil 像を用いて)  
帖佐 悦男 田島 直也 長鶴 義隆  
第7回日本整形外科学会基礎学術集会, 1992, 10, 東京
- 69 寛骨臼球状骨切り術前後の三次元的被覆度と応力解析  
帖佐 悦男 田島 直也 鳥取部 光司 長鶴 義隆  
第19回整形外科バイオメカニクス研究会, 1992, 10, 東京
- 70 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (第一報: 関節突起間部)  
鳥取部 光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 帖佐 悦男  
第19回整形外科バイオメカニクス研究会, 1992, 10, 東京
- 71 骨粗鬆症における肥満細胞の関与について—低カルシウム食飼育ラットを用いた組織学的検討—  
谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
第1回日本骨粗鬆症研究会, 1992, 10, 大阪
- 72 足関節外側靭帯損傷の観血的治療経験  
田辺 龍樹 寺本 憲市郎 樋口 定信  
第9回天草郡市医師会医学会, 1992, 10, 天草
- 73 外傷性線維性顎関節強直症に対する顎関節開放手術の一例  
田中 延幸 田辺 龍樹 寺本 憲市郎 樋口 定信  
第9回天草郡市医師会医学会, 1992, 10, 天草
- 74 大腿骨頭沁り症の治療—画像診断による治療法の選択  
長鶴 義隆 立山 洋司 大田 博人  
第19回日本股関節学会, 1992, 11, 福井
- 75 高校生ボクシング選手にみられたスポーツ障害  
獅子目 賢一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
第3回日本臨床スポーツ医学会総会, 1992, 11, 大阪

76 青壮年期のスポーツ障害について

平川 俊一 田島 直也 桑原 茂  
第3回日本臨床スポーツ医学会総会, 1992, 11, 大阪

77 RA患者における大腿骨頸部骨折の治療法について

福田 健二 桑原 茂 帖佐 悦男 田島 直也  
第40回日本災害医学会, 1992, 11, 東京

78 股関節における臼蓋被覆について (二次元, 三次元的な比較検討)

帖佐 悦男 田島 直也 長鶴 義隆  
第19回日本股関節学会, 1992, 11, 福井

79 BONE GRAFTING USING FIBRIN GLUE FOR POSTERO-LATERAL SPINAL FUSION AND TOTAL HIP REPLACEMENT WITH CENTRAL MIGRATION

N.Tajima S.Kuwahara S.Hirakawa K.Matsumoto  
Update and Future Trends in Fibrin Sealing in Surgical and Non-Surgical in Fields, 1992, 11, AUSTRIA

80 RA腰椎病変の経時的変化と手術の適応

黒田 宏 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 久保 紳一郎  
第38回西日本脊椎研究会, 1992, 11, 福岡

81 RA上位頸椎手術例の長期成績

谷口 博信 桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
第38回西日本脊椎研究会, 1992, 11, 福岡

82 RA患者の関節手術評価法の試案

谷口 博信 桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
第84回西日本整形・災害外科学会, 1992, 11, 佐賀

83 尺骨神経管症候群の3例

松元 征徳 帖佐 悦男 戸田 勝 田島 直也  
中村 誠司  
第84回西日本整形・災害外科学会, 1992, 11, 佐賀

84 三次元有限要素法による腰椎の応力解析(第二報:椎間板)

鳥取部 光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 帖佐 悦男  
第84回西日本整形・災害外科学会, 1992, 11, 佐賀

85 特発性側彎症における平衡機能の解析

樋口 潤一 田島 直也 平川 俊一 佐藤 謙助  
第84回西日本整形・災害外科学会, 1992, 11, 佐賀

86 脳性麻痺股関節脱臼の治療成績

長鶴 義隆 立山 洋司 大田 博人  
第3回日本小児整形外科学会, 1992, 12, 福岡

87 RAの治療

税所幸一郎  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

88 多発骨折後に発生した脂肪塞栓症候群の1例

飯干 明 柏木 輝行 黒田 宏 帖佐 悦男  
松本 宏一 田島 直也 長鶴 義隆 立山 洋司  
大田 博人  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

89 下腿開放骨折で髓内釘固定後, 骨髓炎と金属アレルギーを併発した1症例

関本 朝久 福田 健二 伊勢 紘平 田代 宏一  
福元 洋一 田島 直也 中房 淳司 井上 勝平  
三股 恒夫 黒木 浩史  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

90 慢性関節リウマチにおけるRDCの経過を示した一例

山口 政一郎 伊勢 紘平 谷口 博信 帖佐 悦男  
平川 俊一 田島 直也 黒木 隆男 末永 治  
市原 正彬  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎



91 脂肪腫による尺骨神経管症候群の一例

本部 浩一 田島 直也 戸田 勝 帖佐 悦男  
松元 征徳  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

92 大腿内転筋内に発生した extraosseous osteogenic sarcoma の一例

渡邊 信二 谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

93 宮崎県における脊椎損傷の追跡調査— ADL の推移について—

吉田 好志郎 久保 紳一郎 谷口 博信 松本 宏一  
桑原 茂 田島 直也  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

94 DEXA の使用経験

渡部 正一 田島 直也 黒田 宏 松元 征徳  
渡邊 信二 押川 紘一郎  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

95 三次元有限要素法による腰椎関節突起間部の応力解析

坂本 武郎 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
帖佐 悦男 鳥取部 光司  
第25回宮崎整形外科懇話会, 1992, 12, 宮崎

## 編 集 後 記

「いつもと違う平成5年」を同門会員の皆様方にはいかがお過ごしになられたでしょうか。年末を締めくくり、同門会誌第5号をお届けいたします。

教室の平成5年3月の日米整形外科スポーツ医学国際会議、7月の日本整形外科スポーツ医学会の開催、会員の多くが関与した10月のベテランズ大会、また教室員の活発な海外研修、留学、スポーツ実績（野球大会準優勝）などこれまでになくより国際的で、よりスポーツに関わった今年ではなかったかと考えます。これらの関連記事が当然なのごとく多くみられますので御覧ください。

今年是新卒を含め新入会員が6名ありました。会員総数も100名以上となりましたので、会員相互のより良いコミュニケーションを目的として、平成5年4月から新たに同門会会報を発行する運びとなり、9月にはとりあえず2号発行にこぎつけました。会報の充実化はまだまだこれからですが、会員の皆様方には会誌と同様、会報のご一読ならびにご投稿を今後ともよろしく願いたします。

ご多忙中にもかかわらず原稿をお寄せいただきました先生方には厚くお礼申し上げます。

〈岡田記〉

宮崎医大整形外科学教室

## 同 門 会 誌

発行日 平成5年11月30日  
発行者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会  
編集責任者 桑原 茂  
印刷者 (資) 愛文社印刷所